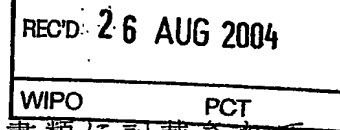


05. 7. 2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 7 月 3 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 9 1 4 3 6
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 9 1 4 3 6]

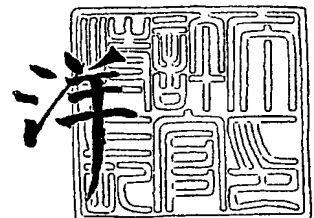
出 願 人 シャープ株式会社
Applicant(s):

**PRIORITY
DOCUMENT**
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 4 年 8 月 1 2 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 03J01515

【提出日】 平成15年 7月 3日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G09G 5/24

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 作田 瑞

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

【氏名】 小山 至幸

【特許出願人】

【識別番号】 000005049

【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100078282

【弁理士】

【氏名又は名称】 山本 秀策

【選任した代理人】

【識別番号】 100062409

【弁理士】

【氏名又は名称】 安村 高明

【選任した代理人】

【識別番号】 100107489

【弁理士】

【氏名又は名称】 大塩 竹志

【書類名】 明細書

【発明の名称】 文字表示装置、文字表示方法、文字表示プログラムおよび可読記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する文字表示装置において、

文字の基本部分と重なるサブピクセルの色要素レベルを、該サブピクセルの中心と、ストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離に基づくか、該ストロークに設定された線幅に基づくかの両方又はいずれかにより設定制御する制御部を有した文字表示装置

【請求項 2】 文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する表示装置において、

所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルを、前記サブピクセルの中心と、ストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離に基づくか、該ストロークに設定された線幅に基づくかの両方又はいずれかにより設定制御する制御部を有した文字表示装置。

【請求項 3】 前記制御部は、前記所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルを、該所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルと前記距離との関係を定義する所定のテーブルによって設定制御する請求項 2 記載の文字表示装置。

【請求項 4】 前記ストロークに含まれる少なくとも一つの点は、前記サブピクセルの中心と同じ X 座標値を持つ点である請求項 1～3 のいずれかに記載の文字表示装置。

【請求項 5】 前記制御部は、前記距離が大きくなるほど前記サブピクセルの色要素レベルを小さく設定制御する請求項 1～4 のいずれかに記載の文字表示装置。

【請求項 6】 前記制御部は、前記サブピクセルの色要素レベルを前記ストロークに設定された X 方向および Y 方向の少なくとも一つの線幅に基づいて設定制御する請求項 1～5 のいずれかに記載の文字表示装置。

【請求項 7】 前記制御部は、前記サブピクセルの色要素レベルを、前記距

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 001878

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0208587

【プルーフの要否】 要

離が設定された範囲内にある場合に所定の値に設定制御する請求項 1～6 のいずれかに記載の文字表示装置。

【請求項 8】 前記画面上に、マトリックス状に配列された複数の表示ピクセルが設けられ、該複数の表示ピクセルのそれぞれに、所定の方向に配列されて複数の色要素にそれぞれ対応付けられた複数の前記サブピクセルがそれぞれ設けられた表示部を有しており、

前記制御部は、前記ストロークデータに基づいて、該複数のサブピクセルに対応する複数の色要素のレベルを、それぞれ独立して制御することにより該画面上に文字を表示制御する請求項 1 または 2 に記載の文字表示装置。

【請求項 9】 前記サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、および該ストロークに設定された線幅の少なくとも一方と、サブピクセルの色要素レベルとが対応付けられたテーブルが記憶されている記憶部を有しており、

前記制御部は、該テーブルの情報に基づいて、該サブピクセルの色要素レベルを設定制御する請求項 1 または 2 に記載の文字表示装置。

【請求項 10】 前記制御部は、前記色要素レベルが設定されたサブピクセルからその近傍のサブピクセルへの距離、および該色要素レベルに基づいて、該その近傍のサブピクセルの色要素レベルを設定制御する請求項 1 または 2 に記載の文字表示装置。

【請求項 11】 前記色要素レベルが設定されたサブピクセルからその近傍のサブピクセルへの距離および該色要素レベルと、該その近傍のサブピクセルの色要素レベルとが対応付けられたテーブルが記憶されている記憶部を有しており、

前記制御部は、該テーブルの情報に基づいて、該その近傍のサブピクセルの色要素レベルを設定制御する請求項 10 に記載の文字表示装置。

【請求項 12】 前記ストロークデータは、文字の骨格形状を表すスケルトンデータまたは文字の輪郭形状を表す文字輪郭情報である請求項 1 または 2 に記載の文字表示装置。

【請求項 13】 文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画

面上に表示する文字表示方法において、

文字の基本部分と重なるサブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離を取得するステップおよび該ストロークに設定された線幅を取得するステップの両方又はいずれかを含み、更に、取得した距離および線幅の両方又はいずれかにより前記サブピクセルの色要素レベルを設定制御するステップを含む文字表示方法。

【請求項 14】 文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する表示方法において、

所定の範囲のサブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離を取得するステップおよび該ストロークに設定された線幅を取得するステップの両方又はいずれかを含み、更に、取得した距離および線幅の両方又はいずれかにより前記サブピクセルの色要素レベルを設定制御するステップを含む文字表示方法。

【請求項 15】 請求項 13 または 14 に記載の文字表示方法の各処理ステップをコンピュータに実行させるための文字表示プログラム。

【請求項 16】 請求項 15 記載の文字表示プログラムが記録されたコンピュータ読み取り可能な可読記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、カラー表示が可能な表示デバイスを用いて文字を表示する文字表示装置、文字表示方法、これをコンピュータに実行させるための文字表示プログラムおよびそれが記録されたコンピュータ読み出し可能な可読記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、カラー表示が可能な表示デバイスを用いて高精細に文字を表示する文字表示装置が例えば特許文献 1 に開示されている。

【0003】

この特許文献 1 の文字表示装置では、文字の基本部分に対応するサブピクセル

の色要素レベルが所定の色要素レベルに設定され、少なくとも一つの補正パターンに基づいて、文字の基本部分に対応するサブピクセルに隣接するサブピクセルの色要素レベルが所定の色要素レベル以外の色要素レベルに設定される。設定された色要素レベルが所定のテーブルによって輝度レベルに変換され、表示部（表示デバイス）に表示出力される。

【0004】

ここで、文字の基本部分とは文字の芯（中心骨格）に相当する部分である。

【0005】

また、色要素は、RGBやCYMなどのデータがピクセルに含まれるサブピクセル単位で割り当てられており、色要素レベルはそれぞれの色要素が文字色に寄与する度合いを示すものである。この従来技術では、色要素レベルは「0」～「7」の値で表されており、「7」が文字色であり、「0」は背景色となる。このように、サブピクセル単位で割り当てられた色要素レベルを用いることによって、実際の文字色－背景色の組み合わせによらない論理モデルを構築することができる。

【0006】

なお、実際に、文字表示装置に文字を表示する際には、色要素レベルを輝度値に変換する必要がある、色要素レベルを輝度値に変換する輝度テーブルが文字色・背景色の組み合わせに応じて設けられている。例えば、白背景に黒文字を表示する場合には、色要素レベル「7」はR、G、Bともに輝度値0に変換され、色要素レベル「0」はR、G、Bともに輝度値255に変換される。

【0007】

図16は、特許文献1に従って、文字「/」（スラッシュ）の基本部分に対応するサブピクセルの色要素の強さを所定の値に設定し、ある補正パターンに基づいて文字の基本部分に対応するサブピクセルに隣接するサブピクセルの色要素レベルを設定した場合の一例を示す図である。

【0008】

それぞれの矩形は一つのサブピクセルに対応している。また、ハッチングが施されている矩形は、その濃度によって色要素レベルの大きさが表されており、濃

度が濃くなるに従って色要素レベルは大きくなる。この例では、色要素レベルは、「0」、「1」、「2」および「3」の4段階であり、輝度レベルが「0」から「255」で表される場合においては、例えば、輝度レベル「255」、輝度レベル「170」、輝度レベル「85」、輝度レベル「0」に変換されて表示部に表示されるようになっている。

【0009】

このように、サブピクセルの色要素レベルを独立して制御することにより、サブピクセルが配列された方向の解像度を擬似的に高くすることができる。さらに、文字の基本部分に対応するサブピクセルに隣接するサブピクセルの色要素レベルを適切に制御することにより、文字に着色されている黒以外の色を人間の目で観察したときに目立たなくすることができる。その結果、文字の輪郭だけではなく、文字そのものを表示画面上に高精細に表示することが可能になる。

【0010】

また、サブピクセルを独立に制御して文字を表示する他の従来技術として、例えば特許文献2に開示されている。

【0011】

この特許文献2に開示されている従来の表示装置では、表示対象である文字のサイズに対して、例えばサブピクセルの長手方向に3倍、かつ、サブピクセルの配列方向に3倍のサイズの文字画像がラスタライズされる。この文字画像に含まれるサブピクセルの長手方向に連続する3個の画素（ピクセル）からなる画素列毎に一つのサブピクセルが対応付けられて、長手方向に連続する3個の画素のそれぞれに与えられた画素値に基づいて、このサブピクセルの輝度値が算出されるようになっている。

【0012】

図17は、特許文献2に開示されている従来の表示装置の具体的な動作について説明するための図である。

【0013】

一般に、文字や図形といった画像は2値の画素値で表現されており、例えば図17(a)に示すように、斜線を表示画面上に表示させる場合、各画素（ピクセ

ル)には単純に二つの輝度値がマッピングされる。この図17(a)および図17(b)において、各矩形は、表示画面を構成するピクセルを表しており、黒部分が斜線に相当している。

このような場合に、特許文献2に開示されている従来の表示装置では、表示画面上の各画素への単純なマッピングは行われず、まず、表示装置の解像度の例えば3倍の解像度で文字画像が作成される。例えば、表示装置の1画素が 3×3 のマトリックスで構成されていると仮定した場合、本来、表示される画像の3倍の大きさで文字画像がラスタライズされる。例えば図17(a)に示すような斜線を表示装置の解像度の3倍の解像度でラスタライズした場合、図17(b)に示すようにラスタライズされる。

【0014】

このようにして得られた3倍の大きさの文字画像を構成する各画素について、表示装置の各サブピクセルに対応した複数の画素の画素値の平均値が求められ、表示装置のサブピクセル上にマッピングされる。例えば、図17(b)に示すような文字画像は、図17(c)に示すように各サブピクセルにマッピングされている。この図17(c)において、矩形は一つのサブピクセルに対応しており、Rの文字が上に表示されているサブピクセルでは赤色が発色され、Gの文字が上に表示されているサブピクセルでは緑色が発色され、Bの文字が上に表示されているサブピクセルでは青色が発色されるものとする。また、黒部分は、画素値の平均値がマッピングされた六つのサブピクセルを示しており、縦長の六つのサブピクセルはそれぞれ、図17(b)において縦方向に隣接する三つの画素に対応している。

【0015】

これによって、サブピクセルの配列方向の解像度を向上させると共に、3倍の解像度で生成された文字の部分が一つのサブピクセルにどれだけ対応付けられているかによって、各サブピクセルで発色される強度が決定されるため、サブピクセルの長手方向の解像度も擬似的に向上させることが可能となる。

【0016】

【特許文献1】

特開 2001-100725 号公報

【特許文献 2】

特開 2002-91369 号公報

【0017】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記特許文献 1 の従来技術では、サブピクセルの長手方向の解像度については考慮されていないため、斜線を表示する場合に、その傾斜角の大きさによってはジャギーが顕著になるという問題がある。

【0018】

また、上記特許文献 2 の従来技術では、その処理プロセス中で、解像度が 3 倍の文字画像がラスタライズされるため、大量の作業用メモリが必要になるという問題がある。また、自由に文字の線幅や字体を変えることができないという制限もある。

【0019】

本発明は、上記従来の問題を解決するもので、大量の作業用メモリを用いることなく、サブピクセルの配列方向および長手方向の解像度を擬似的に向上させると共に、自由に文字の線幅を変更することもできる文字表示装置、文字表示方法、その各処理手順をコンピュータに実行させるための文字表示プログラムおよびそれが記録されたコンピュータ読み取り可能な可読記録媒体を提供することを目的とする。

【0020】

【課題を解決するための手段】

本発明の文字表示装置は、文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する文字表示装置において、文字の基本部分と重なるサブピクセルの色要素レベルを、該サブピクセルの中心と、ストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離に基づくか、該ストロークに設定された線幅に基づくかの両方又はいずれかにより設定制御する制御部を有しており、そのことにより上記目的が達成される。

【0021】

本発明の文字表示装置は、文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する表示装置において、所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルを、前記サブピクセルの中心と、ストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離に基づくか、該ストロークに設定された線幅に基づくかの両方又はいずれかにより設定制御する制御部を有しており、そのことにより上記目的が達成される。

【0022】

また、好ましくは、本発明の文字表示装置における制御部は、前記所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルを、該所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルと前記距離との関係を定義する所定のテーブルによって設定制御する。

【0023】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置において、ストロークに含まれる少なくとも一つの点は、前記サブピクセルの中心と同じX座標値を持つ点である。

【0024】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置における制御部は、前記距離が大きくなるほど前記サブピクセルの色要素レベルを小さく設定制御する。

【0025】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置における制御部は、前記サブピクセルの色要素レベルを前記ストロークに設定されたX方向およびY方向の少なくとも一つの線幅に基づいて設定制御する。

【0026】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置における制御部は、前記サブピクセルの色要素レベルを、前記距離が設定された範囲内にある場合に所定の値に設定制御する。

【0027】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置において、画面上に、マトリックス状に配列された複数の表示ピクセルが設けられ、該複数の表示ピクセルのそれぞれに、所定の方向に配列されて複数の色要素にそれぞれ対応付けられた複数の

前記サブピクセルがそれぞれ設けられた表示部を有しており、前記制御部は、前記ストロークデータに基づいて、該複数のサブピクセルに対応する複数の色要素のレベルを、それぞれ独立して制御することにより該画面上に文字を表示制御する。

【0028】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置において、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、および該ストロークに設定された線幅の少なくとも一方と、サブピクセルの色要素レベルとが対応付けられたテーブルが記憶されている記憶部を有しており、前記制御部は、該テーブルの情報に基づいて、該サブピクセルの色要素レベルを設定制御する。

【0029】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置における制御部は、前記色要素レベルが設定されたサブピクセルからその近傍のサブピクセルへの距離、および該色要素レベルに基づいて、該その近傍のサブピクセルの色要素レベルを設定制御する。

【0030】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置において、色要素レベルが設定されたサブピクセルからその近傍のサブピクセルへの距離および該色要素レベルと、該その近傍のサブピクセルの色要素レベルとが対応付けられたテーブルが記憶されている記憶部を有しており、前記制御部は、該テーブルの情報に基づいて、該その近傍のサブピクセルの色要素レベルを設定制御する。

【0031】

さらに、好ましくは、本発明の文字表示装置におけるストロークデータは、文字の骨格形状を表すスケルトンデータまたは文字の輪郭形状を表す文字輪郭情報である。

【0032】

本発明の文字表示方法は、文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する文字表示方法において、文字の基本部分と重なるサブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離を取得するステ

ップおよび該ストロークに設定された線幅を取得するステップの両方又はいずれかを含み、更に、取得した距離および線幅の両方又はいずれかにより前記サブピクセルの色要素レベルを設定制御するステップを含んでおり、そのことにより上記目的が達成される。

【0033】

本発明の文字表示方法は、文字情報を構成するストロークデータに基づいて文字を画面上に表示する表示方法において、所定の範囲のサブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離を取得するステップおよび該ストロークに設定された線幅を取得するステップの両方又はいずれかを含み、更に、取得した距離および線幅の両方又はいずれかにより前記サブピクセルの色要素レベルを設定制御するステップを含んでおり、そのことにより上記目的が達成される。

【0034】

本発明の文字表示プログラムは、請求項13または14に記載の文字表示方法の各処理ステップをコンピュータに実行させるためのものであり、そのことにより上記目的が達成される。

【0035】

また、本発明の可読記録媒体は、請求項15に記載の文字表示プログラムが記録されたコンピュータ読み取り可能なものであり、そのことにより上記目的が達成される。

【0036】

上記構成により、以下に、本発明の作用について説明する。

【0037】

本発明の文字表示装置にあっては、文字の基本部分と重なるサブピクセルの色要素レベルが、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方に基づいて設定制御される。これにより、大量の作業用メモリを用いることなく、高速かつ高精度で、ストロークデータに基づいて各サブピクセルの色要素レベルを設定制御することが可能となる。ここで、ストロークデータとしては、文字の骨格形状を表

すスケルトンデータや文字の輪郭形状を表す文字輪郭情報などを用いることができる。

【0038】

また、本発明の文字表示装置にあっては、所定の範囲のサブピクセルの色要素レベルが、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方に基づいて設定制御される。これにより、大量の作業用メモリを用いることなく、高速かつ高精度で、ストロークデータに基づいて各サブピクセルの色要素レベルを設定制御することが可能となる。また、文字の線幅や字体を柔軟に変更することが可能となる。ここで、所定の範囲とは、取り扱うサブピクセルの範囲を定めたものであり、例えば文字の基本部分の近傍に、サブピクセル領域を予め定めたものであってもよい。また、ストロークと重なるサブピクセルとその他のサブピクセルとの距離によって所定の範囲を定めてもよい。

【0039】

サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方と、サブピクセルの色要素レベルとが対応付けられたテーブルを予め用意し、そのテーブルの情報に基づいて、サブピクセルの色要素レベルを設定制御することができる。これによって、高速かつきめ細かく色要素レベルを設定制御することが可能となる。

【0040】

ストロークに含まれる少なくとも一つの点は、サブピクセルの中心と同じX座標値を有する点とすることができる。これによって、Y方向の位置関係によるサブピクセルの色要素レベルの制御が可能となり、サブピクセルの長手方向の解像度を擬似的に向上させることが可能となる。

【0041】

サブピクセルの色要素レベルは、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離が大きくなるほど小さく設定制御する。これによって、文字を滑らかに表示させることが可能となる。

【0042】

サブピクセルの色要素レベルは、ストロークに設定されたX方向およびY方向の少なくとも一方の線幅に基づいて設定制御することができる。これによって、文字の線幅を細かく設定することが可能となる。

【0043】

サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離が設定範囲内（例えば0.3未満）である場合に、サブピクセルの色要素レベルを所定の値（例えば最大値である「7」）に設定制御することができる。これによって、ストロークの芯の部分強調することが可能となる。

【0044】

サブピクセルの色要素レベルは、1ステップで設定してもよいが、2ステップ以上で設定することもできる。例えば、2ステップで設定する場合には、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方に基づいてサブピクセルの色要素レベル（第1の色要素レベル）を設定し、そのサブピクセルとその近傍のサブピクセルとの色要素レベル（第2の色要素レベル）を、第1の色要素レベルが設定されたサブピクセルからの距離、および第1の色要素レベルに基づいて設定することができる。

【0045】

この場合、第1の色要素レベルが設定されたサブピクセルからの距離、および第1の色要素レベルと、第2の色要素レベルとが対応付けられたテーブルを予め用意して、テーブルの情報に基づいて、第2の色要素レベルを設定制御することができる。これによって、高速かつきめ細かく色要素レベルを設定制御することができる。

【0046】

本発明の文字表示方法にあつては、文字の基本部分と重なるサブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方を取得するステップと、取得された距離および線幅の少なくとも一方に基づいて、そのサブピクセルの色要素レベルを設定するステップとを含んでいる。これによって、大量の作業用メモリを用いることなく、

高速かつ高精度で、ストロークデータに基づいた各サブピクセルの色要素レベルを設定制御することができる。

【0047】

また、本発明の文字表示方法にあつては、所定の範囲のサブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方を取得するステップと、取得された距離および線幅の少なくとも一方に基づいて、そのサブピクセルの色要素レベルを設定するステップとを含んでいる。これによって、大量の作業用メモリを用いることなく、高速かつ高精度で、ストロークデータに基づいた各サブピクセルの色要素レベルを設定制御することができる。また、文字の線幅や字体を柔軟に変更することが可能となる。

【0048】

本発明の文字表示プログラムは、本発明の文字表示方法をコンピュータに実行させるための処理手順が記述されている。これにより、コンピュータを用いて、大量の作業用メモリを用いることなく、高速かつ高精度で、ストロークデータに基づいた各サブピクセルの色要素レベルを設定制御することができる。さらに、文字の線幅や字体を柔軟に変更することが可能となる。

【0049】

本発明の可読記録媒体は、本発明の文字表示プログラムが記録されたコンピュータ読み取り可能な記録媒体である。これにより、コンピュータを用いて、大量の作業用メモリを用いることなく、高速かつ高精度で、ストロークデータに基づいた各サブピクセルの色要素レベルを設定制御することができる。さらに、文字の線幅や字体を柔軟に変更することが可能となる。

【0050】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明の文字表示装置の実施形態について図面を参照しながら説明する。

【0051】

(実施形態1)

図1は、本発明の文字表示装置の実施形態1の要部構成を示すブロック図である。

【0052】

図1において、この文字表示装置1Aは、例えばパーソナルコンピュータで構成されていてもよい。パーソナルコンピュータとしては、デスクトップ型またはラップトップ型などの任意のタイプのコンピュータを使用することができる。または、文字表示装置1Aは、ワードプロセッサで構成されていてもよい。

【0053】

また、文字表示装置1Aは、カラー表示が可能な表示デバイスを備えた電子機器や情報機器など、任意の装置であってもよい。例えば、文字表示装置1Aは、カラー液晶表示デバイスを備えたデジタルカメラなどの電子機器や、携帯情報ツールである携帯情報端末や、PHSを含む携帯電話機や、一般の電話機/FAXなどの通信機器などであってもよい。

【0054】

文字表示装置1Aは、カラー表示が可能な表示部としての表示デバイス2と、表示デバイス2に接続され、表示デバイス2の表示画面に含まれる複数のサブピクセルに対応する複数の色要素をそれぞれ独立して制御する制御部3と、制御部3に接続された入力デバイス6と、制御部3に接続された記憶部としての補助記憶装置7とを有している。

【0055】

表示デバイス2は、表示画面上に複数のピクセル（画素）がマトリックス状に配列された任意のカラー表示装置を用いることができ、例えばカラー液晶表示デバイスを用いることができる。

【0056】

図2は、図1の表示デバイス2の表示画面13を模式的に示す図である。

【0057】

表示デバイス2は、図2の左下の矢印で示すX方向およびY方向にマトリクス状に配列された複数のピクセル14を有している。複数のピクセル14のそれぞれは、X方向に配列された複数のサブピクセルを含んでいる。図2の例では、一

つのピクセル14は、横方向に隣接する3個のサブピクセル15a、15bおよび15cを有している。サブピクセル15aは、R（赤）が発色されるように色要素Rに予め割り当てられている。また、サブピクセル15bは、G（緑）が発色されるように色要素Gに予め割り当てられている。さらに、サブピクセル15cは、B（青）が発色されるように色要素Bに予め割り当てられている。ここで、X方向とは一つのピクセルを構成する複数のサブピクセルが隣接する方向を表し、Y方向とはこのX方向に直交する方向を表すものとする。

【0058】

なお、一つのピクセルに含まれるサブピクセルの数は「3」に限定されず、一つのピクセルには、所定の方向に配列された2以上のサブピクセルが含まれていればよい。例えば、N（ $N \geq 2$ ：自然数）個の色要素を用いて色を表す場合には、一つのピクセルにN個のサブピクセルが含まれる。また、色要素の配列順も、図2に示す配列順に限られず、例えばX方向に沿ってB、G、Rの順に配列させてもよい。さらに、サブピクセルの配列方向も、図2に示す方向に限定されず、任意の方向に沿って配列させることができる。

【0059】

さらに、サブピクセルに対応する色要素は、R（赤）、G（緑）、B（青）に限定されず、例えばC（シアン）、Y（イエロー）、M（マゼンタ）など、他の色要素であってもよい。

【0060】

制御部3は、CPU4（中央演算処理装置）と主メモリ5とを有している。この制御部3は、文字表示プログラム7aおよび各種データ7bに基づいて、表示デバイス2の表示画面に含まれるサブピクセルの色要素レベルを設定制御することによって、文字が表示画面13上に表示されるように表示デバイス2を表示制御する。

【0061】

より詳しくは、制御部3は、表示デバイス2の表示画面13上に配列された複数のサブピクセル15a～15bのそれぞれに割り当てられた複数の色要素レベルをそれぞれ独立して制御することにより、入力デバイス6から入力された文字

を表す情報が表示デバイス 2 に表示されるようになっている。

【0062】

制御部 3 に含まれる CPU 4 は、文字表示装置 1 A の全体を制御および監視すると共に、補助記憶装置 7 に格納されている文字表示プログラム 7 a の各処理手順を実行する。

【0063】

制御部 3 に含まれる主メモリ 5 は、文字表示プログラム 7 a の他、入力デバイス 6 から入力されたデータ、表示デバイス 2 に表示させるためのデータ、文字表示プログラム 7 a を実行するために必要なデータなどの各種データ 7 b が一時的に格納される。この主メモリ 5 は、CPU 4 によってアクセスされる。

【0064】

CPU 4 によって、主メモリ 5 に読み出された表示プログラム 7 a および各種データ 7 b に基づいて、文字表示プログラム 7 a の各処理手順が実行されることによって、文字パターンが生成される。生成された文字パターンは、主メモリ 5 に一旦格納された後、表示デバイス 2 に表示出力されて表示される。文字パターンが表示デバイス 2 に表示出力されるタイミングは、CPU 4 によって制御される。

【0065】

入力デバイス 6 は、表示デバイス 2 に表示されるべき文字を表す文字情報を制御部 3 に入力するために用いられる。文字情報としては、例えば、文字を識別するための文字コード、文字の大きさを示す文字サイズ、表示文字のストロークの X 方向および Y 方向の線幅などが含まれる。

【0066】

入力デバイス 6 としては、文字コード、文字の大きさ、ストロークの X 方向および Y 方向の線幅を入力することが可能な任意のタイプの入力デバイスを用いることができる。例えば、キーボードやマウスやペン入力装置などの入力デバイスが入力デバイス 6 として好適に用いられる。

【0067】

本実施形態 1 において、入力デバイス 6 によって入力される表示文字のストロ

ークのX方向およびY方向の線幅は3段階で指定されるものとし、太い文字を表す「太」、中位の線幅を表す「中」、細目の線幅を表す「細」の何れかによって文字の線幅が表されるものとする。なお、ストロークに設定される線幅としては、ユーザによって入力デバイス6を用いて設定されるものを用いる以外に、予め設定された線幅や、後の仕様変更によって再設定された線幅などを用いてもよい。

【0068】

補助記憶装置7には、文字表示プログラム7aと、その文字表示プログラム7aを実行するために必要な各種データ7bとが格納されている。この必要な各種データ7bには、文字の骨格形状を定義するスケルトンデータ71b、後述するY方向補正テーブル72bおよびX方向補正テーブル73bなどが含まれる。

【0069】

なお、本実施形態1では、ストロークを、文字の骨格形状によって厚みを持たない線分として定義しているが、後述する実施形態2に示すように、文字の輪郭形状によって厚みを有する線分として定義されるものもストロークに含まれるものとする。スケルトンデータは、文字を構成する各ストロークの骨格形状を具体的に定めるためのストロークデータであるが、後述する実施形態2のように、ストロークデータは、文字を構成する各ストロークの輪郭形状を定めるものであってもよい。これと区別するためにスケルトンデータということにする。

【0070】

補助記憶装置7は、文字表示プログラム7aおよびデータ7bを格納することが可能な任意のタイプの記憶装置を用いることができる。また、補助記憶装置7において、文字表示プログラム7aおよびそれに必要な各種データ7bを格納する記録媒体として、任意の記録媒体を用いることができる。例えば、ハードディスク、CD-ROM、MO、フロッピーディスク、MD、DVD、ICカード、光カードなどのコンピュータ読み出し可能な各種可読記録媒体を好適に用いることができる。

【0071】

なお、文字表示プログラム7aおよびデータ7bは、補助記憶装置7における

記録媒体に格納されることに限定されない。例えば、文字表示プログラム 7 a およびデータ 7 b は、主メモリ 5 に格納されていてもよく、ROM (図示せず) に格納されていてもよい。ROM としては、例えば、マスク ROM、EPROM、EEPROM、フラッシュ ROM などを用いることができる。この ROM 方式の場合には、その ROM を交換することによって様々な処理のバリエーションを容易に実現することができる。例えば、ROM 方式は、携帯型の端末装置や携帯電話機などに好適に適用することができる。

【0072】

さらに、文字表示プログラム 7 a およびデータ 7 b を格納する記録媒体としては、上記ディスクやカードなどの記憶装置や半導体メモリなどのようにプログラムやデータを固定的に担持する媒体以外に、通信ネットワークにおいてプログラムやデータを搬送するために使用される通信媒体のようにプログラムやデータを流動的に担持する媒体であってもよい。例えば、文字表示装置 1 A がインターネットを含む通信回線に接続するための手段を備えている場合には、その通信回線から文字表示プログラム 7 a およびデータ 7 b をダウンロードすることができる。この場合、ダウンロードに必要なローダープログラムは、ROM (図示せず) に予め格納されていてもよく、補助記憶装置 7 から制御部 3 にインストールされてもよい。

【0073】

次に、補助記憶装置 7 に格納されている各データ 7 b について説明する。データ 7 b には、文字の骨格形状を定義するスケルトンデータ 7 1 b、Y 方向補正テーブル 7 2 b および X 方向補正テーブル 7 3 b が含まれている。

【0074】

まず、スケルトンデータ 7 1 b について説明する。

【0075】

図 3 は、図 1 の補助記憶装置 7 に格納されているスケルトンデータ 7 1 b のデータ構造例を示す図である。

【0076】

図 3 において、このスケルトンデータ 7 1 b は、文字の骨格形状を表しており

、文字の種類を区別するための文字コード16と、一つの文字を構成するストロークの数M（Mは1以上の整数）を示すストローク数17と、各ストロークに対応するストローク情報18とが含まれている。

【0077】

ストローク情報18には、ストロークを構成する複数の点の数N（Nは1以上の整数）を示す点数19と、ストロークの線タイプを示す線タイプ20と、ストロークを構成する複数の点の座標をそれぞれ示す複数の座標データ21とが含まれている。

【0078】

座標データ21の数（点数）は、座標の数19に等しいため、N個の座標データが一つのストロークを構成する座標として格納されていることになる。また、ストローク情報18の数は、ストローク数17に等しいため、スケルトンデータ71bには、M個のストローク情報18が含まれていることになる。

【0079】

線タイプ20は、例えば、「直線」という線タイプと「曲線」という線タイプとが用いられる。線タイプ20が「直線」である場合には、ストロークを構成する複数の点が直線によって近似される。また、線タイプ20が「曲線」である場合には、ストロークを構成する点が曲線（例えば、スプライン曲線など）によって近似される。

【0080】

図4は、漢字の「木」の骨格形状を表すスケルトンデータ71bの例を示す図である。

【0081】

図4において、漢字「木」の骨格形状を表すスケルトンデータ71bは、4個のストローク#1～#4を有している。

【0082】

ストローク#1は、始点（0，192）と終点（255，192）とを結ぶ直線として定義されている。また、ストローク#2は、始点（128，255）と終点（128，0）とを結ぶ直線として定義されている。また、ストローク#3

は、5点(121, 192)、(97, 141)、(72, 103)、(41, 69)および(4, 42)を曲線によって近似することによって得られる。さらに、ストローク#4は、5点(135, 192)、(156, 146)、(182, 107)、(213, 72)および(251, 42)を曲線によって近似することによって得られる。

【0083】

図5は、漢字「木」の骨格形状を表す図4のスケルトンデータ71bを座標平面上に表示した例を示す図である。なお、図5に示す例では、説明を簡略化するため、ストローク#3および#4は直線によって近似されている。

【0084】

次に、Y方向補正テーブル72bについて説明する。

【0085】

補助記憶装置7に格納されているY方向補正テーブル72bは、制御部3によって、表示される文字の基本部分および表示される文字の基本部分にY方向に連続するサブピクセルの第1の色要素レベルを設定するために用いられるものである。このY方向補正テーブル72bは、後述するように、Y方向のストローク（ストロークに含まれる一つの点）とサブピクセルとの間の距離を含む範囲と、入力デバイス6によって入力されたY方向のストロークの線幅との組み合わせが、第1の色要素レベルの値に対応付けられている。

【0086】

本実施形態1では、各サブピクセルの色要素レベルが直接決定されず、2ステップで決定されている。

【0087】

まず、Y方向のストロークとサブピクセルの中心との間の距離、およびY方向のストロークの線幅から、該当するサブピクセルの色要素レベルが決定される。本実施形態1および次の実施形態2では、この色要素レベルを第1の色要素レベルということにする。

【0088】

次に、第1の色要素レベルが決定されたサブピクセルとX方向に隣接するサブ

ピクセルの色要素レベルが、第1の色要素レベルとサブピクセルとの間の距離、およびX方向のストロークの線幅から決定される。本実施形態1および次の実施形態2では、この色要素レベルを第2の色要素レベルということにする。この第2の色要素レベルが最終的に表示デバイス2の輝度値に変換される色要素レベルとして用いられる。

【0089】

なお、このように2ステップで色要素レベルを決定している理由は、使用されるテーブルを単純に表すためであるが、1ステップまたは3ステップ以上で色要素レベルを決定することも可能である。

【0090】

図6は、図1の補助記憶装置7に格納されるY方向補正テーブル72bの具体的な数値例を示す図である。

【0091】

図6において、このY方向補正テーブル72bでは、Y方向のストロークとサブピクセルとの間の距離を含む範囲として0~0.3、0.3~0.8、0.8~1.2、1.2~1.6および1.6~2.0が含まれており、Y方向のストロークの線幅（太さ）として「太」、「中」および「細」が含まれており。これらの組み合わせが、第1の色要素レベルの値に対応付けられている。

【0092】

制御部3では、このようなY方向補正テーブル72bを用いて、文字の基本部分と重なるサブピクセルを含むY方向の所定の範囲のサブピクセルに対して、第1の色要素レベルが設定される。

【0093】

本実施形態1では、スケルトンデータ71bを文字のサイズに基づいて表示画面13にマッピングした場合に、各ストロークが通過するサブピクセルを文字の基本部分としている。

【0094】

制御部3では、文字の基本部分の第1の色要素レベルが、以下のようにして決定される。

【0095】

文字の基本部分と重なるサブピクセルの中心と、その中心のX座標値と同じX座標値を有するストローク上の点との距離（以下、Y方向ストロークサブピクセル間距離と称する）が計算され、その距離を含むY方向補正テーブル72bによって定義されたストロークサブピクセル間距離の範囲、と入力デバイス6から入力されたY方向のストロークの線幅とによって決定されるY方向補正テーブル72bのテーブル値が、第1の色要素レベルとして設定される。なお、上記サブピクセルとして、ストローク上の点と同じX座標値を有するサブピクセルであれば、基本部分と重ならないサブピクセルも含めて、第1色要素レベルを設定するようにしてもよい。

【0096】

これと同様に、制御部3では、文字の基本部分にY方向に連続するサブピクセル（文字の基本部分と重なるサブピクセルと同じX座標値を有するサブピクセル）についても、第1の色要素レベルが以下のようにして設定される。

【0097】

文字の基本部分にY方向に連続するサブピクセルのY方向ストロークサブピクセル間距離が計算され、その距離を含むY方向補正テーブル72bによって定義された距離の範囲、および入力デバイス6から入力されたY方向のストロークの線幅によって決定されるY方向補正テーブル72bのテーブル値が、第1の色要素レベルとして設定される。

【0098】

なお、Y方向ストロークサブピクセル間距離がY方向補正テーブル72bによって定義されている距離の範囲に含まれないサブピクセルは、第1の色要素レベルの設定対象とはされない。

【0099】

以上のように、Y方向補正テーブル72bに基づいて、制御部3によってサブピクセルの第1の色要素レベルが決定されると、図6のY方候補生テーブル72bの場合には、文字の線幅が「太」の場合には、Y方向ストロークサブピクセル間距離が長くなるに従って、色要素レベルが段階的に7、5、4、2、1と減

少する。また、文字の線幅が「中」の場合には、Y方向ストロークサブピクセル間距離が長くなるに従って、色要素レベルが段階的に7、4、2、1と減少する。さらに、文字の線幅が「細」の場合には、Y方向ストロークサブピクセル間距離が長くなるに従って、色要素レベルが段階的に7、2、1と減少する。なお、図6に示すY方向補正テーブル72bにおいては、Y方向に隣接する二つのサブピクセルの各々の中心間の距離を1とし、第1の色要素レベルの最大値は7としている。

【0100】

図7は、図1のスケルトンデータ71bを文字のサイズに基づいて表示画面13にマッピングしたストローク、および一部のサブピクセルの一例を示す図である。

【0101】

以下に、制御部3によって、図7に示すサブピクセルの第1の色要素レベルをY方向補正テーブル72bに基づいて設定する手順について詳細に説明する。

【0102】

図7において、縦方向の三つの矩形はそれぞれ、Y方向に連続したサブピクセル23A、サブピクセル23Bおよびサブピクセル23Cを表している。また、各矩形内の黒丸22A～22Cはそれぞれのサブピクセルの中心点を表している。さらに、斜めの直線はストローク24を表している。

【0103】

ハッチングを施したサブピクセル23Aおよびサブピクセル23Bは何れも、ストローク24が通過しているため、文字の基本部分となる。

【0104】

サブピクセル23A～23Cの中心点22A～22CのY座標値はそれぞれ、2、3および4となっている。また、これらの中心点22A～22Cと同じX座標値を有するストローク24上の点25のY座標値は3.4となっている。したがって、制御部3によって算出されるY方向ストロークサブピクセル間距離は、サブピクセル23Cが1.4、サブピクセル23Bが0.4、サブピクセル23Aが0.6となる。

【0105】

これらの結果を用いて、制御部 3 によって、サブピクセル 23 C については Y 方向補正テーブル 72 b において定義されている Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲の中から 1.2 ~ 1.6 が選択される。また、サブピクセル 23 B については、Y 方向補正テーブル 72 b において定義されている Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲の中から 0.3 ~ 0.8 が選択される。さらに、サブピクセル 23 A については、Y 方向補正テーブル 72 b において定義されている Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲の中から 0.3 ~ 0.8 が選択される。

【0106】

Y 方向のストロークの線幅が「太」に設定されている場合には、サブピクセル 23 C については、Y 方向補正テーブル 72 b 中の線幅「太」を含む行と Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲 1.2 ~ 1.6 を含む列とが交わる箇所の値である「2」が第 1 の色要素レベルとして設定される。また、サブピクセル 23 B については、Y 方向補正テーブル 72 b 中の線幅「太」を含む行と Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲 0.3 ~ 0.8 を含む列とが交わる箇所の値である「5」が第 1 の色要素レベルとして設定される。さらに、サブピクセル 23 A については、Y 方向補正テーブル 72 b 中の線幅「太」を含む行と Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲 0.3 ~ 0.8 を含む列とが交わる箇所の値である「2」が第 1 の色要素レベルとして設定される。

【0107】

Y 方向のストロークの線幅が「中」に設定されている場合には、サブピクセル 23 C については、Y 方向補正テーブル 72 b 中の線幅「中」を含む行と Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲 1.2 ~ 1.6 を含む列とが交わる箇所の値である「1」が第 1 の色要素レベルとして設定される。また、サブピクセル 23 B については、Y 方向補正テーブル 72 b 中の線幅「中」を含む行と Y 方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲 0.3 ~ 0.8 を含む列とが交わる箇所の値である「4」が第 1 の色要素レベルとして設定される。さらに、サブピクセル 23 A については、Y 方向補正テーブル 72 b 中の線幅「中」を含む行と Y 方

向ストローク-サブピクセル間距離の範囲0.3~0.8を含む列とが交わる箇所
の値である「4」が第1の色要素レベルとして設定される。

【0108】

Y方向のストロークの線幅が「細」に設定されている場合には、サブピクセル
23Cについては、Y方向補正テーブル72b中の線幅「細」を含む行とY方向
ストローク-サブピクセル間距離の範囲1.2~1.6を含む列とが交わる箇所
には値が存在しないため、第1の色要素レベルが設定されない。また、サブピク
セル23Bについては、Y方向補正テーブル72b中の線幅「細」を含む行とY
方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲0.3~0.8を含む列とが交わる
箇所の値である「2」が第1の色要素レベルとして設定される。さらに、サブピ
クセル23Aについては、Y方向補正テーブル72b中の線幅「細」を含む行と
Y方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲0.3~0.8を含む列とが交わ
る箇所の値である「2」が第1の色要素レベルとして設定される。

【0109】

なお、Y方向ストローク-サブピクセル間距離が2.0以上であるようなサブ
ピクセルに関しては、Y方向補正テーブル72b中のY方向ストローク-サブピ
クセル間距離の範囲外になるため、第1の色要素レベルは設定されない。

【0110】

サブピクセル23Aやサブピクセル23Bのように、文字の基本部分であって
も、Y方向ストローク-サブピクセル間距離が0.3以上であるような場合には
第1の色要素レベルが最大値である7には設定されない。これに対して、Y方向
ストローク-サブピクセル間距離が0.3未満である場合には、第1の色要素レ
ベルは必ず最大値である7に設定される。これにより、サブピクセル中心付近を
ストロークが通過する場合は、常に、第1の色要素レベルが最大値に設定される
ため、ストロークの芯の部分が強調され、表示品位を向上することが可能となる
。但し、このときの値は、必ずしも色要素レベルの最大値である必要はなく、最
大値に近い値であればよいが、本実施形態1では最大値である「7」としている
。

【0111】

また、サブピクセル 23C のように、文字の基本部分に含まれないサブピクセルであっても、Y 方向ストローク-サブピクセル間距離、および Y 方向のストロークの線幅によっては、第 1 の色要素レベルが設定される。

【0112】

なお、本実施形態 1 では、Y 方向補正テーブル 72b を用いてサブピクセルの第 1 の色要素レベルを設定しているが、上記 Y 方向ストローク-サブピクセル間距離から直接計算によって求めてもよい。例えば、Y 方向ストローク-サブピクセル間距離をパラメータとする 1 次関数によって導出することもできる。このとき、Y 方向ストローク-サブピクセル間距離が、ある定められた Y 方向ストローク-サブピクセル間距離以上の範囲であるサブピクセルについては、第 1 の色要素レベルの設定を省略してもよい。

【0113】

次に、X 方向補正テーブル 73b について説明する。

【0114】

補助記憶装置 7 に格納されている X 方向補正テーブル 73b は、制御部 3 によって第 1 の色要素レベルが設定されたサブピクセル、および第 1 の色要素レベルが設定されたサブピクセルと X 方向に連続するサブピクセル（第 1 の色要素レベルが設定されたサブピクセルと同じ Y 座標値を有するサブピクセル）に対して、第 2 の色要素レベルを設定するために用いられる。この X 方向補正テーブル 73b は、設定された第 1 の色要素レベルの値と、第 1 の色要素レベルが設定されたサブピクセルとの距離と、入力デバイス 6 から入力された X 方向のストロークの線幅との組み合わせが、第 2 の色要素レベルの値に対応付けられている。

【0115】

図 8 は、図 1 の補助記憶装置 7 に格納されている X 方向補正テーブル 73b の数値例を示す図である。

【0116】

制御部 3 では、X 方向のストロークの線幅が「太」に設定されている場合には、図 8（a）に示す X 方向補正テーブル 73b を用いて第 2 の色要素レベルが設定される。また、X 方向のストロークの線幅が「中」に設定されている場合には

、図8(b)に示すX方向補正テーブル73bを用いて第2の色要素レベルを設定される。さらに、X方向のストロークの線幅が「細」に設定されている場合には、図8(c)に示すX方向補正テーブル73bを用いて第2の色要素レベルが設定される。

【0117】

文字の基本部分を含む、Y方向の所定の範囲内に配置されたサブピクセルには、上記Y方向補正テーブル72bを用いて第1の色要素レベルが設定される。そのサブピクセルを含む、X方向の所定の範囲内にあるサブピクセルに、このX方向補正テーブル73bを用いて第2の色要素レベルが設定される。

【0118】

なお、図8のX方向補正テーブル73bにおいて、第1の色要素レベルが設定されたサブピクセルからの距離は、一つのサブピクセルのX方向の長さを1として表されている。

【0119】

X方向の線幅が「太」に設定されている場合には、制御部3によって、図8(a)に示すX方向補正テーブル73bに基づいて、第2の色要素レベルが以下のように設定される。

【0120】

第1の色要素レベルが「7」と設定されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「7」と設定され、第1の色要素レベルが「7」と設定されたサブピクセルとX方向に1サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「5」と設定される。また、第1の色要素レベルが「7」と設定されたサブピクセルとX方向に2サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「4」と設定され、第1の色要素レベルが「7」と設定されたサブピクセルとX方向に3サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「3」と設定される。さらに、第1の色要素レベルが「7」と設定されたサブピクセルとX方向に4サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルを「2」が設定される。

【0121】

これと同様に、第1の色要素レベルが「5」と設定されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「5」と設定され、第1の色要素レベルが「5」と設定されたサブピクセルとX方向に1サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「4」と設定される。また、第1の色要素レベルが「5」と設定されたサブピクセルとX方向に2サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「3」と設定され、第1の色要素レベルが「5」と設定されたサブピクセルとX方向に3サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「1」と設定される。

【0122】

これと同様に、第1の色要素レベルが「4」と設定されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「5」と設定され、第1の色要素レベルが「5」と設定されたサブピクセルとX方向に1サブピクセルだけ離れた距離に配置されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「3」と設定される。

【0123】

これと同様に、第1の色要素レベルが「2」と設定されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「2」と設定される。

【0124】

これと同様に、第1の色要素レベルが「1」と設定されたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルが「1」と設定される。

【0125】

X方向の線幅が「中」および「細」に設定されている場合はそれぞれ、図8（b）および図8（c）に示すX方向補正テーブル73bに基づいて、同様にして第2の色要素レベルが設定される。

【0126】

なお、本実施形態1において、第2の色要素レベルを設定する際に、一つのサブピクセルに対して第2の色要素レベルが重複して設定される場合には、重複して設定された第2の色要素レベルの最大値を最終的な値として設定するが、例え

ば平均値のような他の統計量を用いてもよい。

【0127】

図9(a)は、第1の色要素レベルが設定された二つのサブピクセルの一例を示す図である。なお、図9において、横軸はサブピクセルのX方向の位置を表し、縦軸は各サブピクセルに設定された第1の色要素レベルおよび第2の色要素レベルを示している。また、図9(a)において、点線で示した縦棒の高さが第1の色要素レベルの大きさを示している。

【0128】

図9(a)に示すように、サブピクセル26Aには第1の色要素レベルとして「7」が設定されており、サブピクセル26Bには第1の色要素レベルとして「5」が設定されている。

【0129】

以下、図9(a)に示す各サブピクセルに対して、制御部3によってどのように第2の色要素レベルが設定されるかについて、詳しく説明する。なお、ここでは、X方向の線幅は「細」に設定されているものとする。

【0130】

図9(b)は、サブピクセル26Aの第1の色要素レベルに基づいてサブピクセル26A、およびサブピクセル26AとX方向に連続するサブピクセルに対して第2の色要素レベルを設定した後の状態を示す図である。図9(b)において、太線で示した縦棒の高さが第2の色要素レベルの大きさを表している。

【0131】

制御部3では、X方向の線幅が「細」に対応した図8Cに示すX方向補正テーブル73bが参照され、サブピクセル26Aに設定された第1の色要素レベルである「7」に対応した第2の色要素レベルが取得される。

【0132】

図8(c)に示すX方向補正テーブル73bによれば、第1の色要素レベルが「7」に対応した第2の色要素レベルは、第1の色要素レベルの設定されたサブピクセルからの距離が近い順に「7」、「3」、「1」として設定されている。図9(b)においてハッチングが施された部分がこれらの値を表している。した

がって、図9（b）に太線で表すように、サブピクセル26Aには「7」が、X方向に1サブピクセルだけ離れたサブピクセルに対しては「3」が、X方向に2サブピクセルだけ離れたサブピクセルに対しては「1」が、それぞれ設定される。

【0133】

図9（c）は、サブピクセル26Bの第1の色要素レベルに基づいて、サブピクセル26B、およびサブピクセル26BとX方向に連続するサブピクセルに対して第2の色要素レベルを設定した後の状態を示す図である。この図9（c）において、太線で示した縦棒の高さが第2の色要素レベルの大きさを表している。

【0134】

制御部3では、X方向の線幅が「細」に対応した図8（c）に示すX方向補正テーブル12が参照され、サブピクセル26Bに設定された第1の色要素レベルである5に対応した第2の色要素レベルが取得される。

【0135】

図8（c）に示すX方向補正テーブル12によれば、第1の色要素レベルが5に対応した第2の色要素レベルは、第1の色要素レベルの設定されたサブピクセルからの距離が近い順に5、2として設定されている。図9（c）においてハッチングが施された部分がこれらの値を表している。従って、図9（c）に太線で表すように、サブピクセル26Bには5が、右方向に1サブピクセルだけ離れたサブピクセルに対しては2が設定される。なお、サブピクセル26Bの左方向に1サブピクセルだけ離れたサブピクセルに対しては、第2の色要素レベルとしてより大きい値である7が設定されているため、第2の色要素レベルは更新されない。

【0136】

次に、文字表示プログラム7aについて説明する。

【0137】

図10は、図1の文字表示プログラム7aの各処理手順を示すフローチャートである。この文字表示プログラム7aは、CPU4によって実行される。以下に、文字表示プログラム7aの処理手順に含まれる各ステップを処理の流れに沿っ

て説明する。

【0138】

図10に示すように、ステップS1では、入力デバイス6から、文字コード、文字サイズ、表示される文字のストロークの鮮鋭度、ストロークのX方向およびY方向の線幅からなる文字情報が入力される。例えば、漢字の「木」が表示デバイス2に表示される場合には、文字コードとして4458番（JIS区点コード、44区58点）が入力される。また、文字サイズは、表示される文字の横方向のドット数と縦方向のドット数とによって表され、例えば、20ドット×20ドットが入力される。また、表示される文字のストロークの鮮鋭度は、例えば、「シャープ」、「ノーマル」、「ソフト」のいずれかに対応したコードが入力される。さらに、ストロークのX方向およびY方向の線幅は、例えば、「太」、「中」、「細」のいずれかに対応したコードが入力され、このコードに基づいてY方向補正テーブル72bが決定される。

【0139】

次に、ステップS2では、入力された文字コードに対応する1文字分のスケルトンデータ71bが主メモリ5に格納される。

【0140】

さらに、ステップS3では、入力された文字サイズにしたがって、スケルトンデータ71bの座標データ21がスケーリングされる。このスケーリングにより、スケルトンデータ71bの座標データ21のために予め設定された座標系が、表示デバイス2のための実ピクセル座標系に変換される。但し、このスケーリングは、サブピクセルの配列を考慮して行われる。

【0141】

本実施形態1では、図2に示すように、一つのピクセル14がX方向に配列された3個のサブピクセル15a、15bおよび15cを有しており、文字サイズが20ドット×20ドットである場合に、スケルトンデータ71bの座標データ21は、60（＝20×3）サブピクセル×20ピクセルのデータにスケーリングされる。

【0142】

次に、ステップ S 4 では、スケルトンデータ 7 1 b から 1 ストローク分のデータ（ストローク情報 1 8）が取得される。

【0143】

さらに、ステップ S 5 では、ストローク情報 1 8 に含まれる線タイプ 2 0 が参照され、線タイプ 2 0 が直線である場合には、スケーリングされた座標データ 2 1 を直線で結んだ場合に通過するサブピクセル、およびそのサブピクセルの Y 方向に配置されている近傍のサブピクセルが抽出される。また、線タイプ 2 0 が曲線である場合には、スケーリングされた座標データ 2 1 を曲線で近似して結んだ場合に通過するサブピクセル、およびそのサブピクセルの上下方向に配置されている近傍のサブピクセルが抽出される。その曲線は、例えばスプライン曲線である。

【0144】

さらに、ステップ S 6 では、ステップ S 5 にて抽出された各サブピクセルの中心点の X 座標値と同じ X 座標値を有するストローク上の点とそのサブピクセルの中心点との距離が算出される。例えば、二つの X 座標値の差の絶対値を計算することによって、距離を算出することができる。

【0145】

さらに、ステップ S 7 では、ステップ S 6 で算出された距離と、ステップ S 1 で取得された Y 方向のストロークの線幅とから、Y 方向補正テーブル 7 2 b が参照されて第 1 の色要素レベルが設定される。

【0146】

さらに、ステップ S 8 では、ステップ S 5 にて抽出された各サブピクセルの X 方向に配置されている近傍のサブピクセルについて、ステップ S 7 で設定された第 1 の色要素レベルと、ステップ S 1 で取得された X 方向のストロークの線幅とから、X 方向補正テーブル 7 3 b が参照されて第 2 の色要素レベルが設定される。但し、既により大きい第 2 の色要素レベルが設定されている場合には、更新は行われず。

【0147】

さらに、ステップ S 9 では、ステップ S 8 で設定されたサブピクセルの第 2 の

色要素レベルに対応する輝度データ（テーブルデータを用いて輝度データに変換してもよい）が表示デバイス 2 に転送される。

【0148】

さらに、ステップ S10 では、1 文字に含まれる全てのストロークについて、ステップ S4～S9 の処理が完了したか否かが判定される。「No」であれば、処理はステップ S4 の処理に戻り、「Yes」であれば、処理が完了する。

【0149】

このようにして、サブピクセルの色要素レベルが設定されていく様子について、図 11A～図 11D に示している。

【0150】

図 11A は、座標データ 21 のスケーリングを行った後のストローク 27 を表示画面 13 の実ピクセル座標上にマッピングした例を表す図である。

【0151】

図 11B は、制御部 3 によって設定された Y 方向ストロークサブピクセル間距離を、各サブピクセルに対応した矩形内部に表した図である。但し、Y 方向ストロークサブピクセル間距離が 2.0 以上のサブピクセルについては、設定が行われなため空白とされている。

【0152】

図 11C は、図 11B の各サブピクセルの Y 方向ストロークサブピクセル間距離から制御部 3 によって設定された第 1 の色要素レベルを、各サブピクセルに対応した矩形内部に表した図である。但し、Y 方向のストロークの線幅は、データ中に設定されているものとする。

【0153】

図 11D は、図 11C の各サブピクセルの第 1 の色要素レベルから制御部 3 によって設定された第 2 の色要素レベルを、各サブピクセルに対応した矩形内部に表した図である。但し、X 方向のストロークの線幅はデータ中に設定されているものとする。

【0154】

（実施形態 2）

図 12 は、本発明の文字表示装置の実施形態 2 の要部構成を示すブロック図である。なお、図 12 において、図 1 に示す実施形態 1 の文字表示装置 1A の構成要素と同じ構成要素については、同一の符号を付してその説明を省略する。

【0155】

図 12 において、この文字表示装置 1B は、補助記憶装置 8 に、文字表示プログラム 8a と、その文字表示プログラム 8a を実行するために必要なデータ 8b とが格納されている。データ 8b には、文字の輪郭を定義する文字輪郭情報 81b と Y 方向補正テーブル 82b と X 方向補正テーブル 83b とが含まれている。それ以外の構成は、上記実施形態 1 の文字表示装置 1A の場合と同様である。

【0156】

以下に、補助記憶装置 8 に格納されている各データ 8b について説明する。

【0157】

まず、文字輪郭情報 81b について説明する。

【0158】

図 13 は、図 12 の補助記憶装置 8 に格納されている文字輪郭情報 81b のデータ構造を示す図である。

【0159】

図 13 において、文字輪郭情報 81b には、文字の種類を区別するための文字コード 28 と、一つの文字を構成するストロークの数を示すストローク数 29 と、各ストロークに対応するストローク情報 30 とが含まれている。

【0160】

このストローク情報 30 には、ストロークの種類を区別するためのストロークコード 31 と、一つのストロークを構成する輪郭点の数を示す輪郭点数 32 と、一つのストロークを構成する輪郭点の座標を示す輪郭点座標データ 34 へのポインタ 33 とが含まれている。ポインタ 33 は、補助記憶装置 8 において輪郭点座標データ 34 が記憶されている位置を指している。このストローク情報 30 を参照することによって、一つのストロークを構成する輪郭点の座標を得ることができる。ここで、輪郭点座標データ 34 において、一つのストロークを構成する輪郭点の座標は、反時計周りに並んでいるものとする。

【0161】

ストローク情報30の数は、ストローク数29に等しい。したがって、ストローク数29がN（Nは1以上の整数）である場合には、文字輪郭情報81bには、ストロークコード1～Nに対応してN個のストローク情報30が含まれている。

【0162】

文字の輪郭形状を表す方法としては、（1）文字の輪郭線を直線で近似する方法、（2）文字の輪郭線を直線および円弧の組み合わせで近似する方法、（3）文字の輪郭線を直線および曲線（例えば、スプライン曲線など）の組み合わせで近似する方法などが挙げられる。

【0163】

文字輪郭情報10bには、上記（1）～（3）の方法の何れか一つにしたがって得られる複数の輪郭点の座標を輪郭点座標データ34として含まれていてもよい。文字の品位およびデータ容量を考慮すると、文字輪郭情報81bには、上記（3）の方法に基づいて輪郭点座標データ34が含まれていることが好ましい。

【0164】

なお、文字輪郭情報81bは、文字を構成する各ストロークの輪郭形状を具体的に定めるためのストロークデータであるが、上記実施形態1で説明したように、ストロークデータはストロークの骨格の形状を定めるものであってもよい。これと区別するために、本実施形態2では文字輪郭情報ということにする。

【0165】

次に、Y方向補正テーブル82bについて説明する。

【0166】

Y方向補正テーブル82bは、制御部3によって、表示される文字の基本部分、および表示される文字の基本部分にY方向に連続するサブピクセルの第1の色要素レベルを設定するために用いられる。本実施形態2では、文字輪郭情報81bを文字のサイズに基づいて表示画面13にマッピングした場合に、各ストロークの輪郭に囲まれた領域の一部を含むサブピクセルを、文字の基本部分とする。なお、Y方向補正テーブル82bおよびX方向補正テーブル83bの一例として

、上記図 6 に示すような Y 方向補正テーブル 7 2 b および図 8 に示すような X 方向補正テーブル 7 3 b を用いることができるため、ここではその説明を省略する。

【0167】

制御部 3 では、文字の基本部分の第 1 の色要素レベルが以下のようにして設定される。

【0168】

文字の基本部分と重なるサブピクセルの中心がストロークの輪郭で囲まれた領域の外部に存在する場合には、サブピクセルの中心の X 座標値と同じ X 座標値を有するストロークの輪郭上の点との距離のうち、最も短い距離（以下、Y 方向ストローク-サブピクセル間距離と称する）が計算される。但し、サブピクセルの中心がストロークの輪郭で囲まれた領域の内部に存在する場合には、Y 方向ストローク-サブピクセル間距離は「0」とされる。そして、算出されたストローク-サブピクセル間距離を含む Y 方向補正テーブル 8 2 b によって定義された距離の範囲と、入力デバイス 6 から入力された Y 方向のストロークの線幅とによって定まる Y 方向補正テーブル 8 2 b のテーブル値が、第 1 の色要素レベルとして設定される。

【0169】

これと同様に、制御部 3 では、文字の基本部分に Y 方向に連続するサブピクセルについても、第 1 の色要素レベルが以下のようにして設定される。

【0170】

文字の基本部分に Y 方向に連続するサブピクセルの Y 方向ストローク-サブピクセル間距離が計算され、その距離を含む Y 方向補正テーブル 8 2 b によって定義された距離の範囲と、入力デバイス 6 から入力された Y 方向のストロークの線幅とによって定まる Y 方向補正テーブル 8 2 b のテーブル値が、第 1 の色要素レベルとして設定される。

【0171】

以下に、制御部 3 によって、図 1 4 に示すサブピクセルの Y 方向ストローク-サブピクセル間距離を設定する手順について説明する。

【0172】

図14は、図12の文字輪郭情報81bを文字のサイズに基づいて表示画面13にマッピングしたストローク、および一部のサブピクセルの一例を示す図である。

【0173】

図14において、三つの矩形はそれぞれ、Y方向に連続したサブピクセル36A、サブピクセル36Bおよびサブピクセル36Cを表している。また、各矩形内の黒丸35A～35Cは、それぞれのサブピクセルの中心点を表している。さらに、斜めに傾斜した矩形はストローク37を表している。

【0174】

斜線で示したサブピクセル36Aおよびサブピクセル36Bは、何れもストローク37の一部を含むため、文字の基本部分となる。

【0175】

サブピクセル36A、サブピクセル36Bおよびサブピクセル36Cの中心点35A～35CのY座標値はそれぞれ2、3、4となっている。また、これらの中心点35A～35Cと同じX座標値を有するストローク37の輪郭上の点38Aおよび点38BのY座標値は、それぞれ2、4、3、2となっている。

【0176】

サブピクセル36Aの中心点35Aは、ストローク37の下に存在するため、点38Bよりも点38Aとの距離が短い。したがって、制御部3によって算出されるY方向ストロークーサブピクセル間距離は、点38Aとサブピクセル36Aの中心点35aとの距離である0.4となる。

【0177】

サブピクセル36Bの中心点35Bは、ストローク37の輪郭に囲まれた領域内に存在するため、Y方向ストロークーサブピクセル間距離は0となる。

【0178】

サブピクセル36Cの中心点35Cは、ストローク37の上に存在しないため、点38Aよりも点38Bとの距離が短い。したがって、制御部3によって算出されるY方向ストロークーサブピクセル間距離は、点38Bとサブピクセル36

Cの中心点35Cとの距離である0.8となる。

【0179】

以上のように、本実施形態2においては、制御部3によってY方向ストロークサブピクセル間距離を算出するための動作が実施形態1とは異なっている。但し、Y方向ストロークサブピクセル間距離からY方向補正テーブル82bに基づいて第1の色要素レベルを設定する動作、および、X方向補正テーブル83bに基づいて第2の色要素レベルを設定するための動作は、上記実施形態1で説明したものと同様であるため、ここではその説明を省略する。

【0180】

次に、文字表示プログラム8aについて説明する。

図15は、図12の文字表示プログラム8aの各処理手順を示すフローチャートである。この文字表示プログラム8aは、CPU4によって実行される。以下に、文字表示プログラム8aの各処理手順に含まれる各ステップを処理の流れに沿って順次説明する。

【0181】

図15に示すように、まず、ステップS11では、入力デバイス6から文字コード、文字サイズ、表示される文字のストロークの鮮鋭度、ストロークのX方向およびY方向の線幅からなる文字情報が入力される。例えば、漢字の「木」が表示デバイス2に表示される場合には、文字コードとして4458番（JIS区点コード、44区58点）が入力される。また、文字サイズは、表示される文字の横方向のドット数と縦方向のドット数とによって表現され、例えば、20ドット×20ドットである。また、表示される文字のストロークの鮮鋭度は、例えば「シャープ」、「ノーマル」、「ソフト」の何れかに対応したコードが入力される。さらに、ストロークのX方向およびY方向の線幅は、例えば「太」、「中」、「細」の何れかに対応したコードが入力され、このコードに基づいてY方向補正テーブル82bが決定される。

【0182】

次に、ステップS12では、入力された文字コードに対応する1文字分の文字輪郭情報81bが主メモリ5に読み出される。

【0183】

さらに、ステップS13では、文字輪郭情報81bに含まれる1ストローク分の輪郭点座標データ34に基づいて、文字の理想的な輪郭線が算出される。文字の理想的な輪郭線は、公知の方法にしたがって直線または曲線を用いて近似される。

【0184】

さらに、ステップS14では、入力された文字サイズにしたがって、ステップS13で算出された文字の理想的な輪郭線がスケーリングされる。このスケーリング処理により、輪郭点座標データ34のために予め設定された座標系が、表示デバイス2のための実ピクセル座標系に変換される。

【0185】

さらに、ステップS15では、ステップS14でスケーリングされた文字の輪郭線から1ストローク分のデータが取得される。

【0186】

さらに、ステップS16では、ステップS15で取得された1ストロークの輪郭で囲まれた領域を含むサブピクセル、およびそのサブピクセルにY方向に配置されている近傍のサブピクセルが抽出される。

【0187】

さらに、ステップS17では、ステップS16で抽出された各サブピクセルの中心点がステップS15で取得された1ストロークの内部にあるか否かが判定される。ステップS17で「Yes」であれば処理はステップS18に進み、「No」であれば処理はステップS19に進む。

【0188】

ステップS18では、距離Dが「0」に設定され、ステップS20に進む。

【0189】

ステップS19では、ステップS16で抽出された各サブピクセルの中心点と同一のX座標値を有するストロークの輪郭上の点のうち、最も近い点との距離が計算されて距離Dに設定される。

【0190】

さらに、ステップ S 20 では、ステップ S 18 またはステップ S 19 で設定された距離 D と、ステップ S 11 で取得された Y 方向のストロークの線幅とから、Y 方向補正テーブル 82b が参照されて第 1 の色要素レベルが設定される。

【0191】

次に、ステップ S 21 では、ステップ S 16 で抽出された各サブピクセルの X 方向に配置されている近傍のサブピクセルについて、ステップ S 20 で設定された第 1 の色要素レベルと、ステップ S 11 で取得された X 方向のストロークの線幅とから、X 方向補正テーブル 83b が参照されて第 2 の色要素レベルが設定される。但し、既により大きい第 2 の色要素レベルが設定されている場合には、更新は行われない。

【0192】

さらに、ステップ S 22 では、ステップ S 21 で設定されたサブピクセルの第 2 の色要素レベルに対応する輝度データが表示デバイス 2 に転送される。

【0193】

さらに、ステップ S 23 では、1 文字に含まれる全てのストロークについて、ステップ S 15 ～ S 22 の処理が完了したか否かが判定される。ステップ S 23 で「No」であれば、処理はステップ S 15 に戻り、「Yes」であれば、処理が完了する。

【0194】

以上により、上記実施形態 1, 2 によれば、制御部 3 によって、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅に基づいて、そのサブピクセルに対応する色要素レベルを設定制御して、表示デバイス 2 の表示画面に文字を表示させることができる。これによって、大容量の作業用メモリを用いることなく、サブピクセルの長手方向の解像度を擬似的に向上させると共に、自由に文字の線幅を変更することができる。

【0195】

なお、上記実施形態 1, 2 では、特に説明しなかったが、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点との距離、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方に基づいて、そのサブピクセルに対応する色要素レ

ベルを設定制御して、表示デバイス 2 の表示画面に文字を表示させることができる。例えば、ストロークに含まれる 2 点との距離に基づいてサブピクセルの色要素レベルを設定制御してもよいし、線幅だけに基づいて色要素レベルを設定制御してもよい。

【0196】

【発明の効果】

以上により、本発明によれば、複数のサブピクセルに対応する複数の色要素レベルが、ストロークとの位置関係によって制御される。これにより、大量のメモリを用いることなく、高速かつ高精細に文字を表示させることができる。

【0197】

また、複数のサブピクセルに対応する複数の色要素レベルが、ストロークの線幅に応じて制御される。これにより、自由かつ高精度に文字の幅を変更して表示させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の文字表示装置の実施形態 1 における要部構成を示すブロック図である。

【図 2】

図 1 の表示デバイスの表示画面の構成を示す模式図である。

【図 3】

図 1 のスケルトンデータのデータ構造例を示す図である。

【図 4】

図 1 のスケルトンデータを「木」のスケルトンデータに適用した場合の一例を示す図である。

【図 5】

図 4 に示す「木」のスケルトンデータを座標面に表示した例を示す図である。

【図 6】

図 1 の Y 方向補正テーブルの数値例を示す図である。

【図 7】

線分で構成されたストロークが通過するサブピクセルと近傍のサブピクセルを示す図である。

【図 8】

(a) ~ (c) はそれぞれ、図 1 の X 方向補正テーブルの数値例を示す図である。

【図 9】

第 1 の色要素レベルから第 2 の色要素レベルを設定する方法について説明するための図であり、(a) は二つのサブピクセルに対して設定された第 1 の色要素レベルを示す図、(b) は (a) に示すサブピクセル 26 A から設定された第 2 の色要素レベルを示す図、(c) は (b) に示すサブピクセル 26 B から設定された第 2 の色要素レベルを示す図である。

【図 10】

本発明の実施形態 1 の文字表示方法における各処理手順を示すフローチャートである。

【図 11 A】

本発明の実施形態 1 の文字表示方法において、色要素レベルが設定されていく様子について示す図であって、表示画面上にマッピングされたストロークを示す図である。

【図 11 B】

本発明の実施形態 1 の文字表示方法において、色要素レベルが設定されていく様子について示す図であって、図 11 A に示すストロークと各サブピクセルとの距離を計算した結果を示す図である。

【図 11 C】

本発明の実施形態 1 の文字表示方法において、色要素レベルが設定されていく様子について示す図であって、図 11 B に示す距離から第 1 の色要素レベルを設定した結果を示す図である。

【図 11 D】

本発明の実施形態 1 の文字表示方法において、色要素レベルが設定されていく様子について示す図であって、図 11 C に示す第 1 の色要素レベルから第 2 の色

要素レベルを設定した結果を示す図である。

【図 1 2】

本発明の文字表示装置の実施形態 2 における要部構成を示すブロック図である。

【図 1 3】

図 1 2 の文字輪郭情報のデータ構造例を示す図である。

【図 1 4】

輪郭線で構成されたストロークが通過するサブピクセルと近傍のサブピクセルを示す図である。

【図 1 5】

本発明の実施形態 2 の文字表示方法における各処理手順を示すフローチャートである。

【図 1 6】

特許文献 1 に開示されている従来技術を用いて表示した斜線「/」の表示画面上でのレベル値を示す図である。

【図 1 7】

特許文献 2 に開示されている従来の表示装置の動作を説明するための図であって、(a) は斜線をピクセル単位でラスタライズした状態を示す図、(b) は (a) に示す斜線を 3 倍の解像度でラスタライズした状態を示す図、(c) は (b) に示す斜線をサブピクセルにマッピングした状態を示す図である。

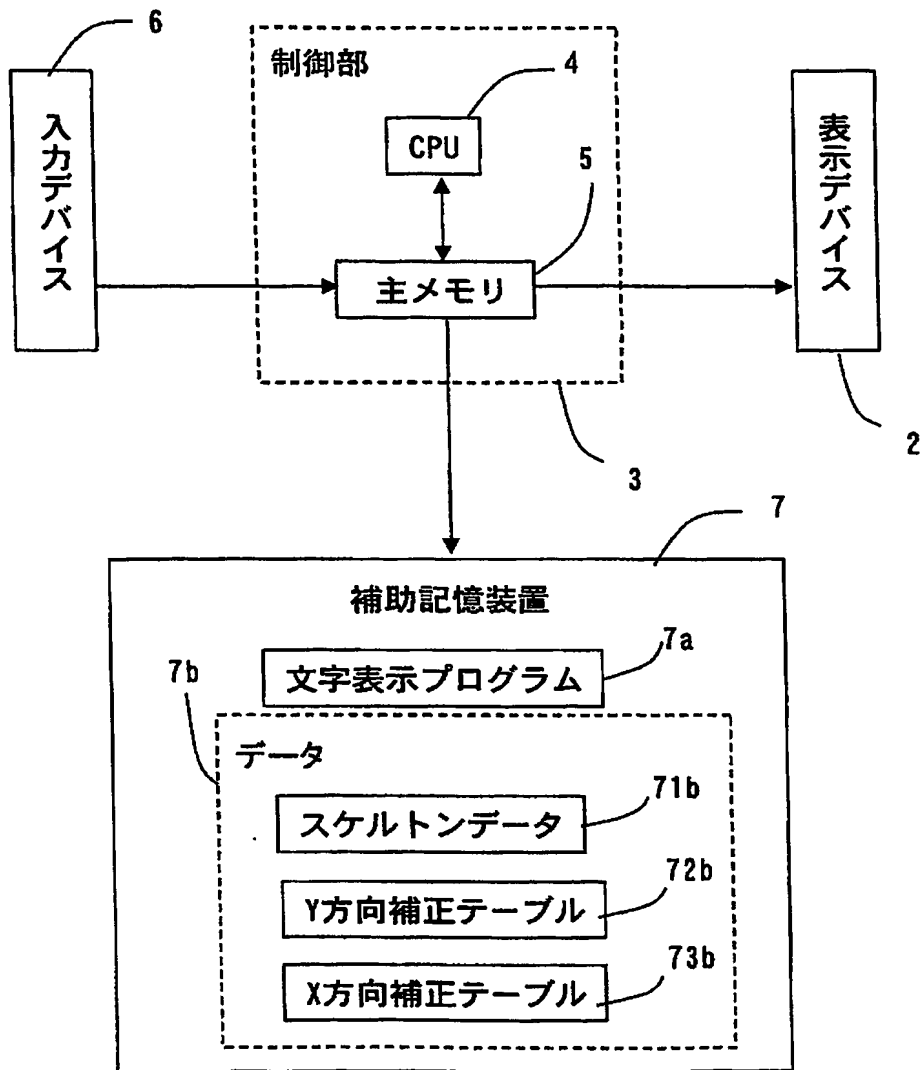
【符号の説明】

- 1 A、1 B 文字表示装置
- 2 表示デバイス
- 3 制御部
- 4 CPU
- 5 主メモリ
- 6 入力デバイス
- 7、8 補助記憶装置
- 7 a、8 a 文字表示プログラム

7 b、8 b データ
7 1 b スケルトンデータ
8 1 b 文字輪郭情報
7 2 b、8 2 b Y方向補正テーブル
7 3 b、8 3 b X方向補正テーブル
1 3 表示画面
1 4 ピクセル
1 5 a 赤が発色されるサブピクセル
1 5 b 緑が発色されるサブピクセル
1 5 c 青が発色されるサブピクセル
1 6 文字コード
1 7 ストローク数
1 8 ストローク情報
1 9 ストロークを構成する点数
2 0 ストロークの線タイプ
2 1 ストロークを構成する点の座標
2 2 A～2 2 C、3 5 A～3 5 C 中心点
2 3 A～2 3 C、2 6 A、2 6 B、3 6 A～3 6 C サブピクセル
2 4、2 7、3 7 ストローク
2 5 ストローク上の点
2 8 文字コード
2 9 ストローク数
3 0 ストローク情報
3 1 ストロークコード
3 2 輪郭点数
3 3 輪郭点座標データへのポインタ
3 4 輪郭点座標データ
3 8 A、3 8 B ストロークの輪郭上の点

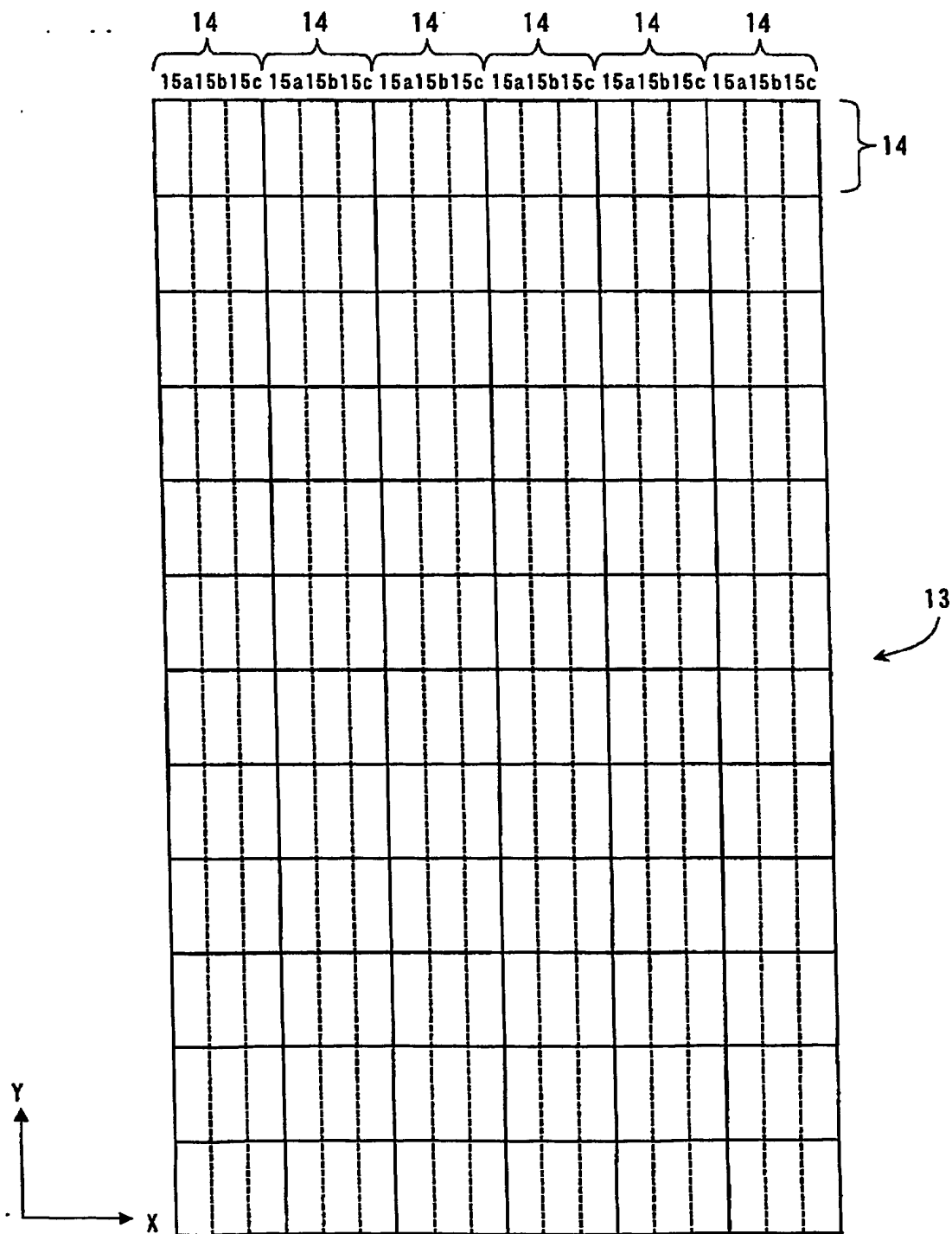
【書類名】 図面

【図 1】

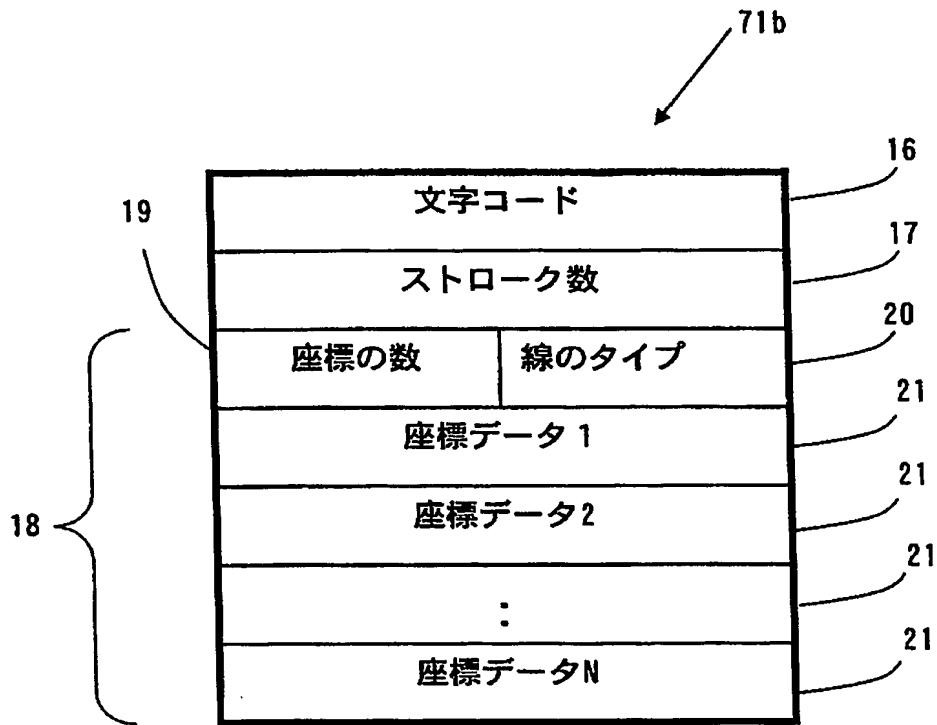


1A

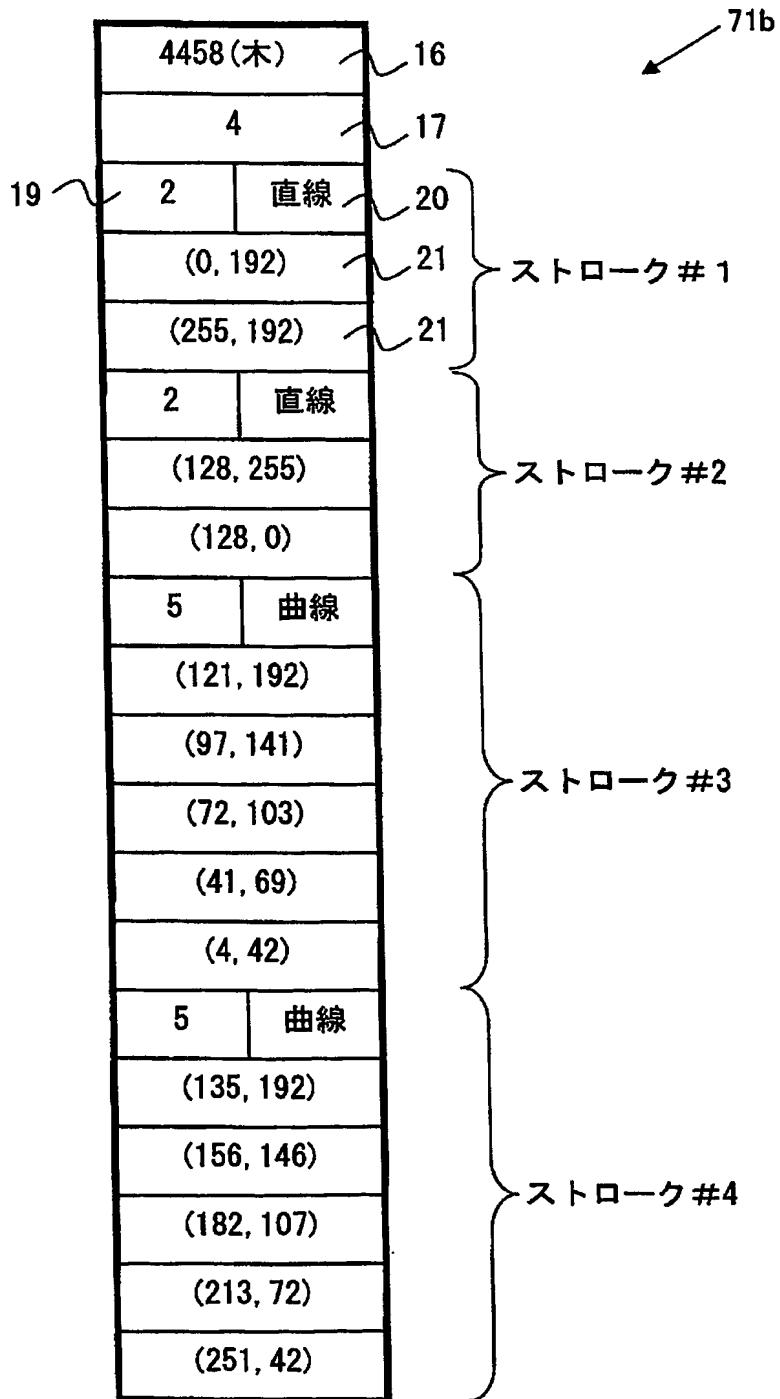
【図 2】



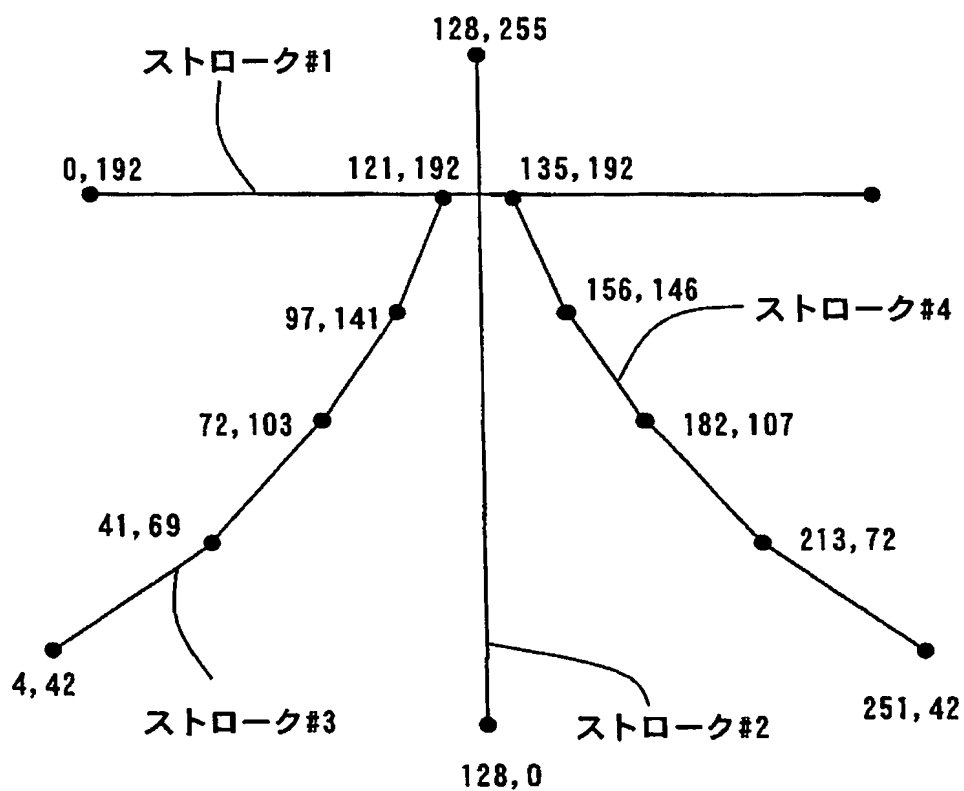
【図 3】



【図 4】



【図 5】



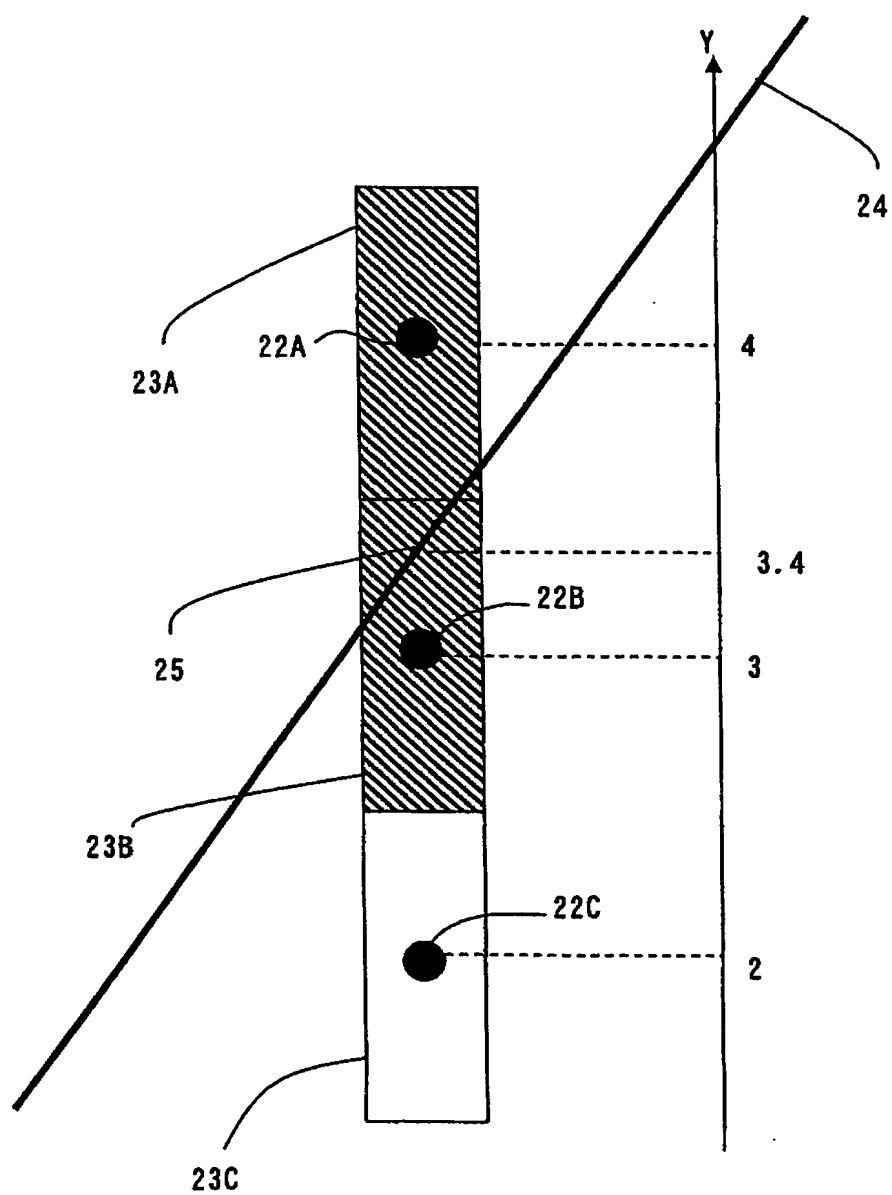
【図 6】

		Y方向ストローク-サブピクセル間距離の範囲				
		0~0.3	0.3~0.8	0.8~1.2	1.2~1.6	1.6~2.0
太さ	太	7	5	4	2	1
	中	7	4	2	1	
	細	7	2	1		

※a~bはa以上b未満の範囲を表す

72b

【図 7】



【図8】

(a)

		第一の色要素レベルの設定されたサブピクセルからの距離				
		0	1	2	3	4
第一の色要素レベル	7	7	5	4	3	2
	5	5	4	3	1	
	4	4	2			
	2	2				
	1	1				

X方向のストロークの太さが「太」に設定されている場合に使用

73b

(b)

		第一の色要素レベルの設定されたサブピクセルからの距離				
		0	1	2	3	4
第一の色要素レベル	7	7	4	3	2	
	5	5	3	1		
	4	4	1			
	2	2				
	1	1				

X方向のストロークの太さが「中」に設定されている場合に使用

73b

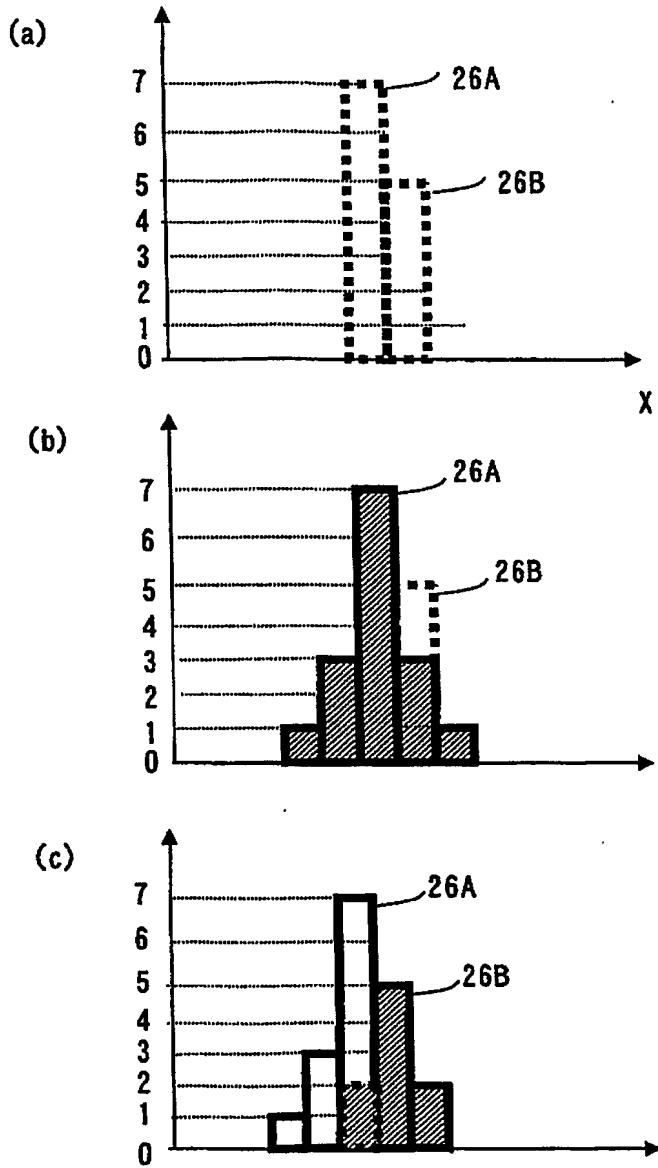
(c)

		第一の色要素レベルの設定されたサブピクセルからの距離				
		0	1	2	3	4
第一の色要素レベル	7	7	3	1		
	5	5	2			
	4	4				
	2	2				
	1	1				

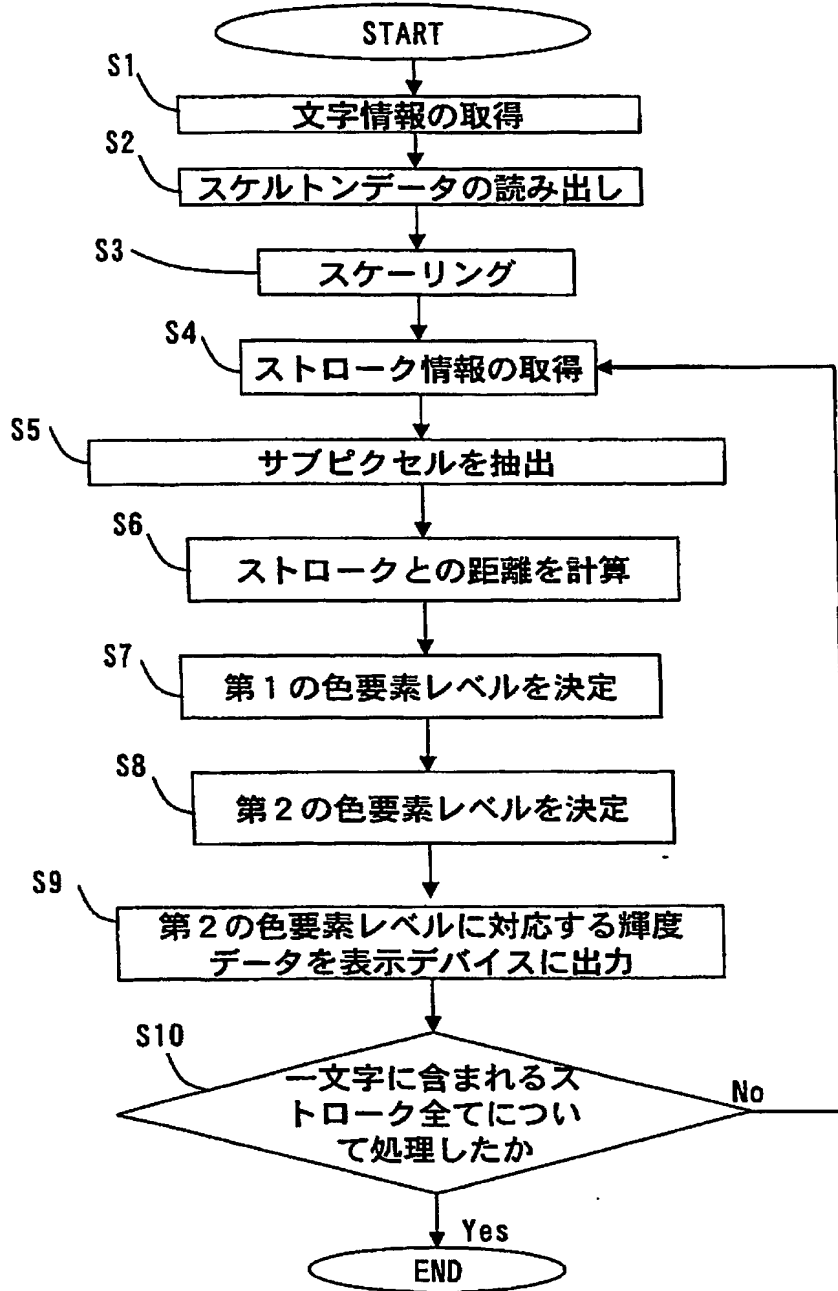
X方向のストロークの太さが「細」に設定されているときに使用

73b

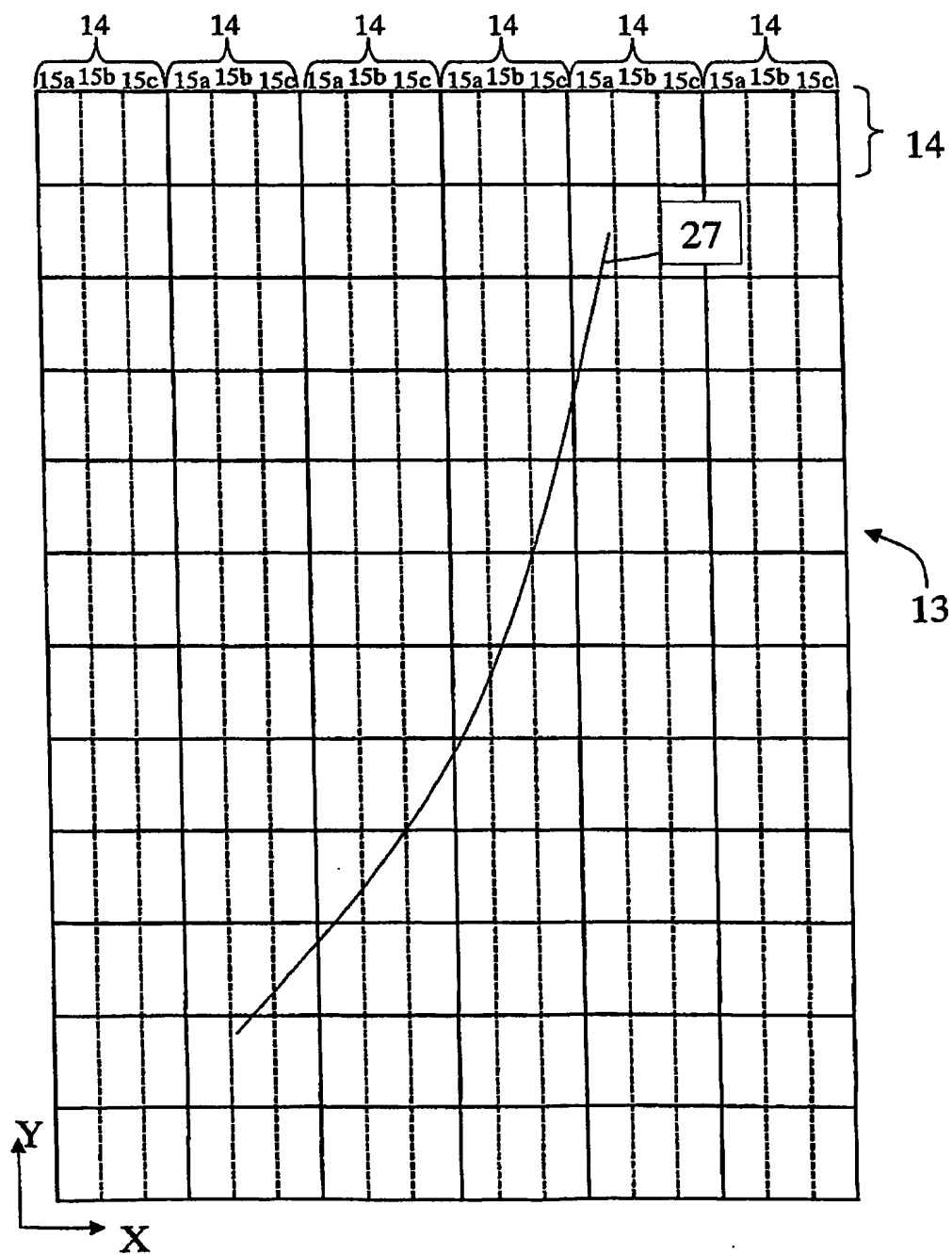
【図 9】



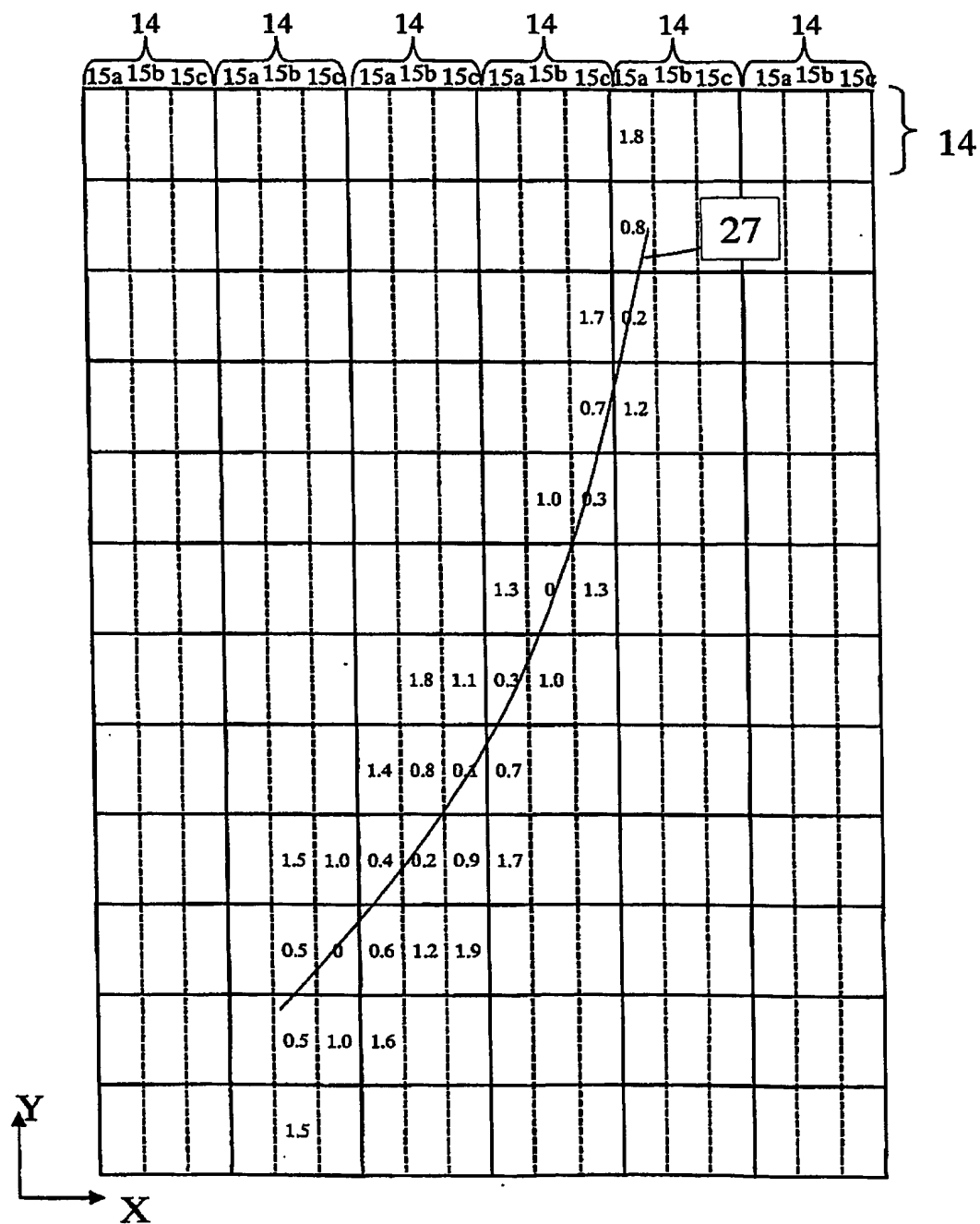
【図10】



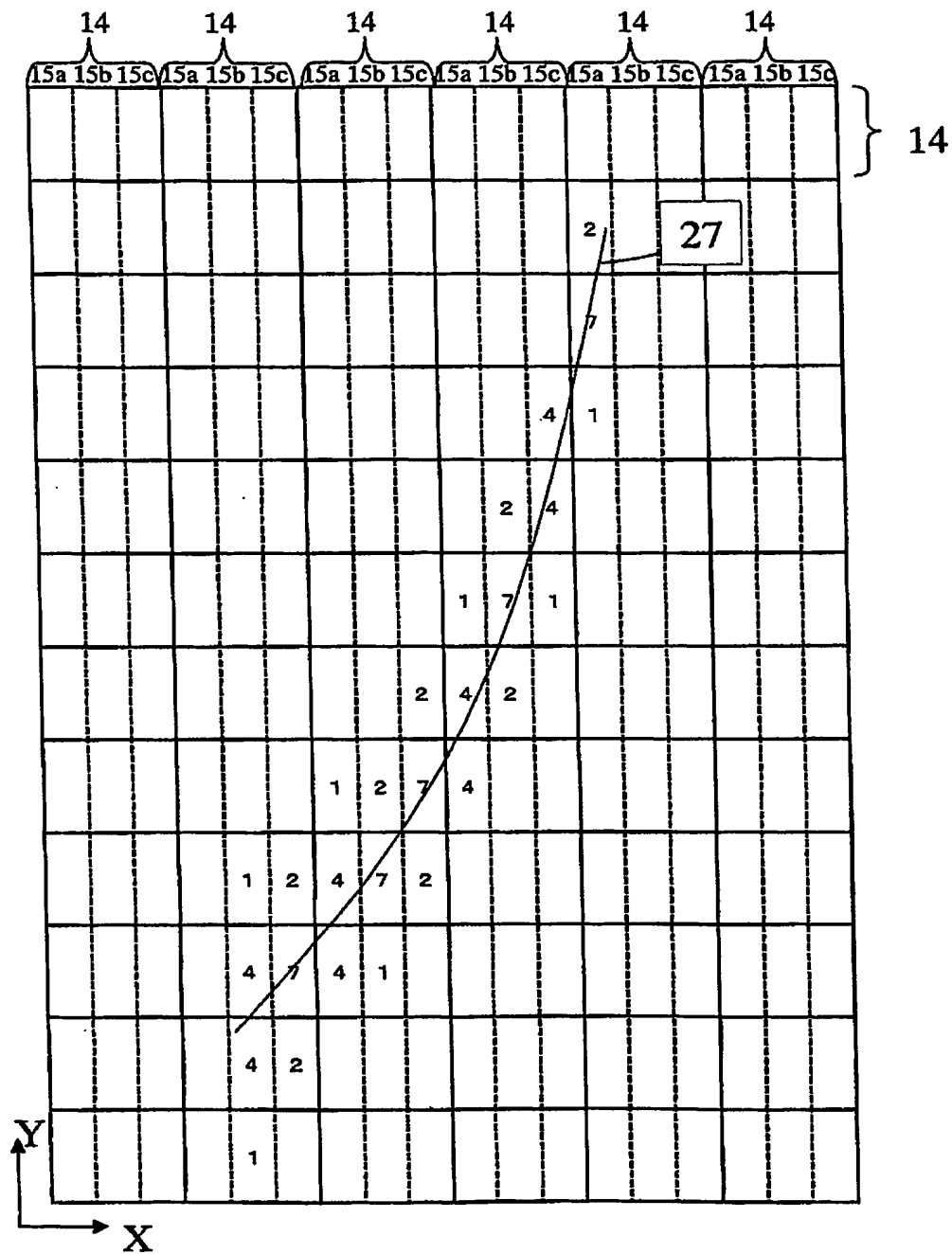
【図 11 A】



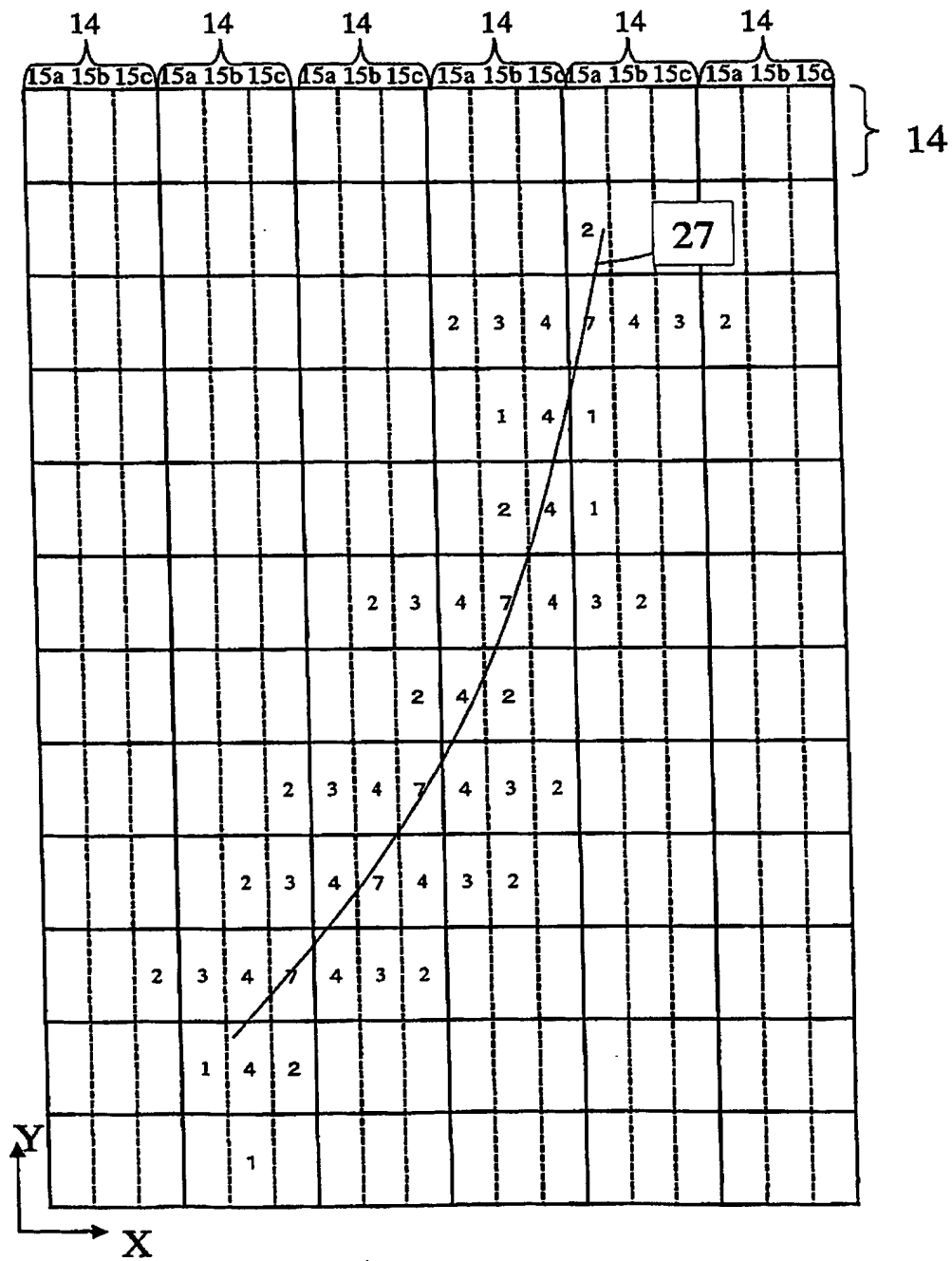
【図 11B】



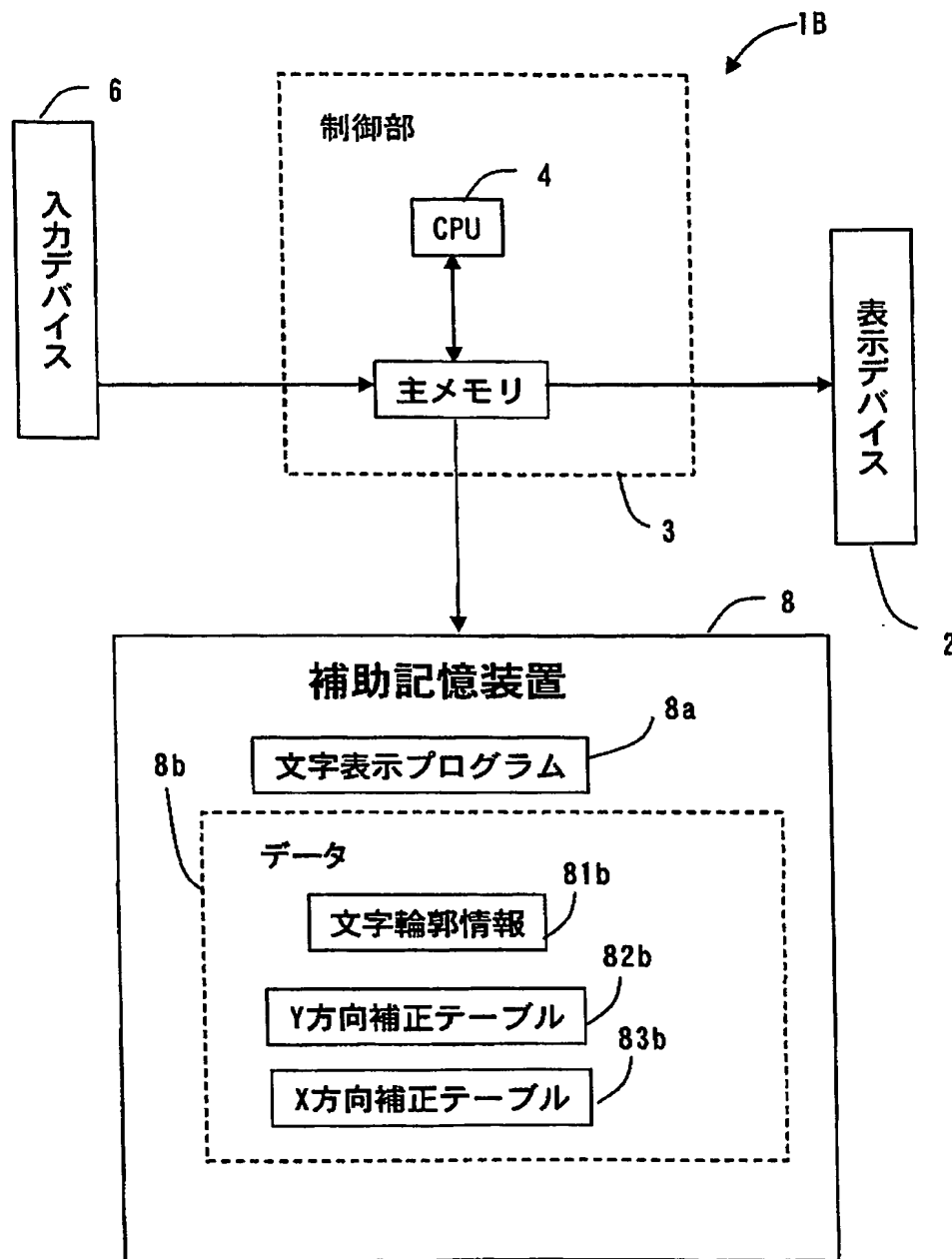
【図 11C】



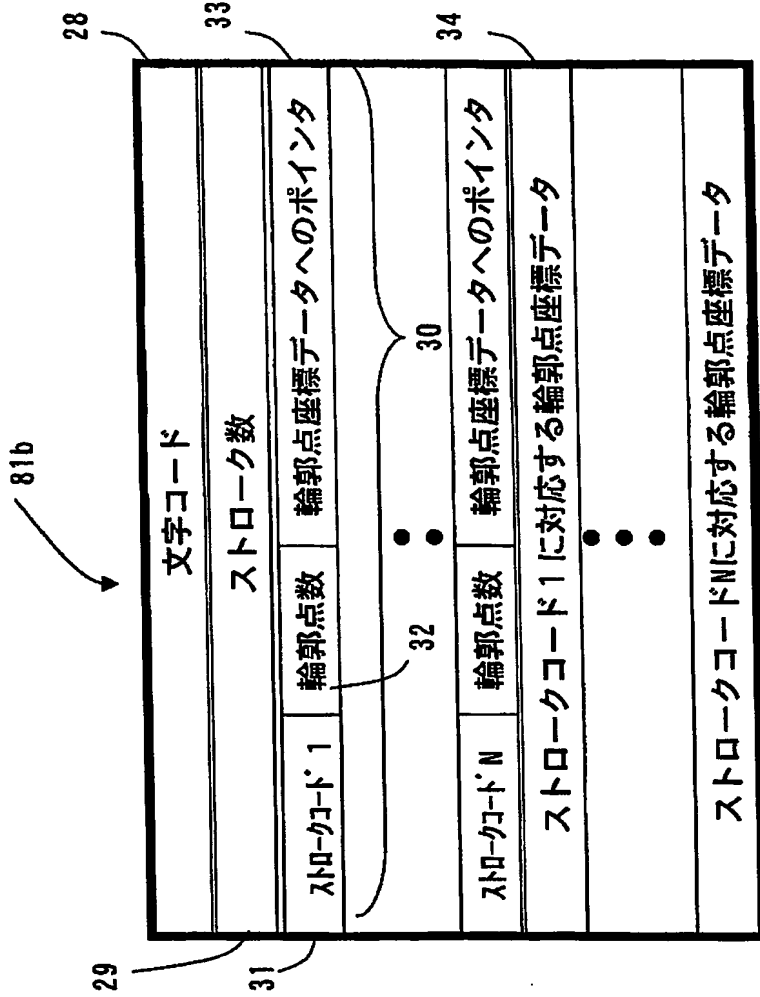
【図 11D】



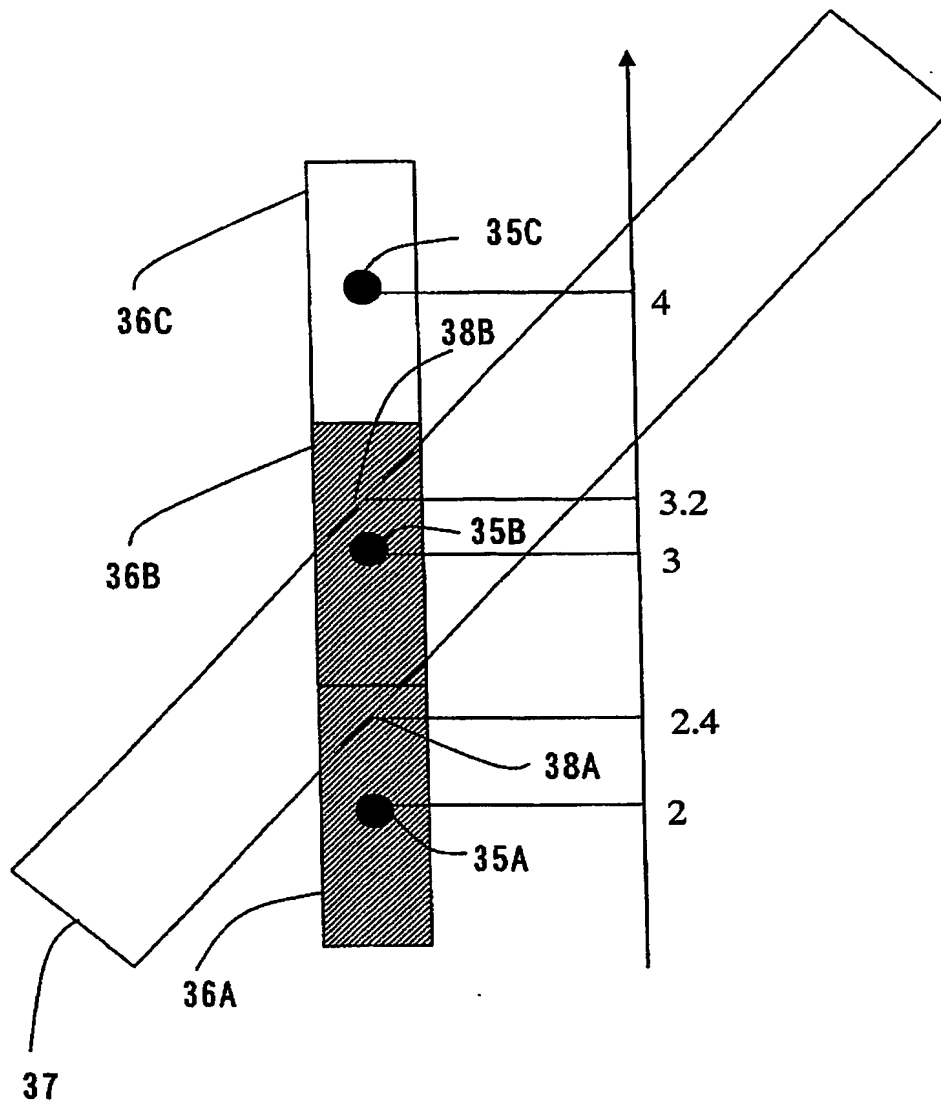
【図 12】



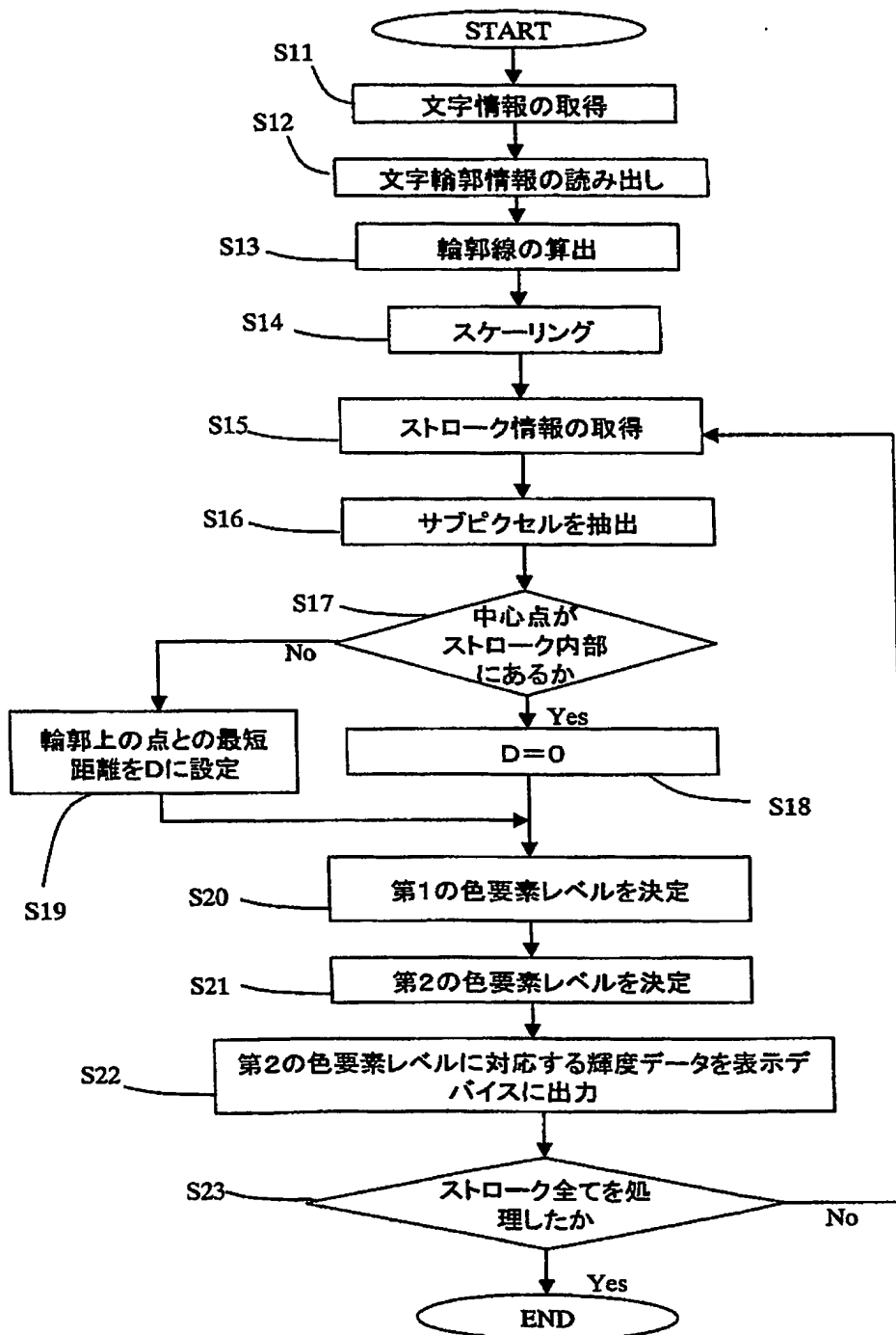
【図 13】



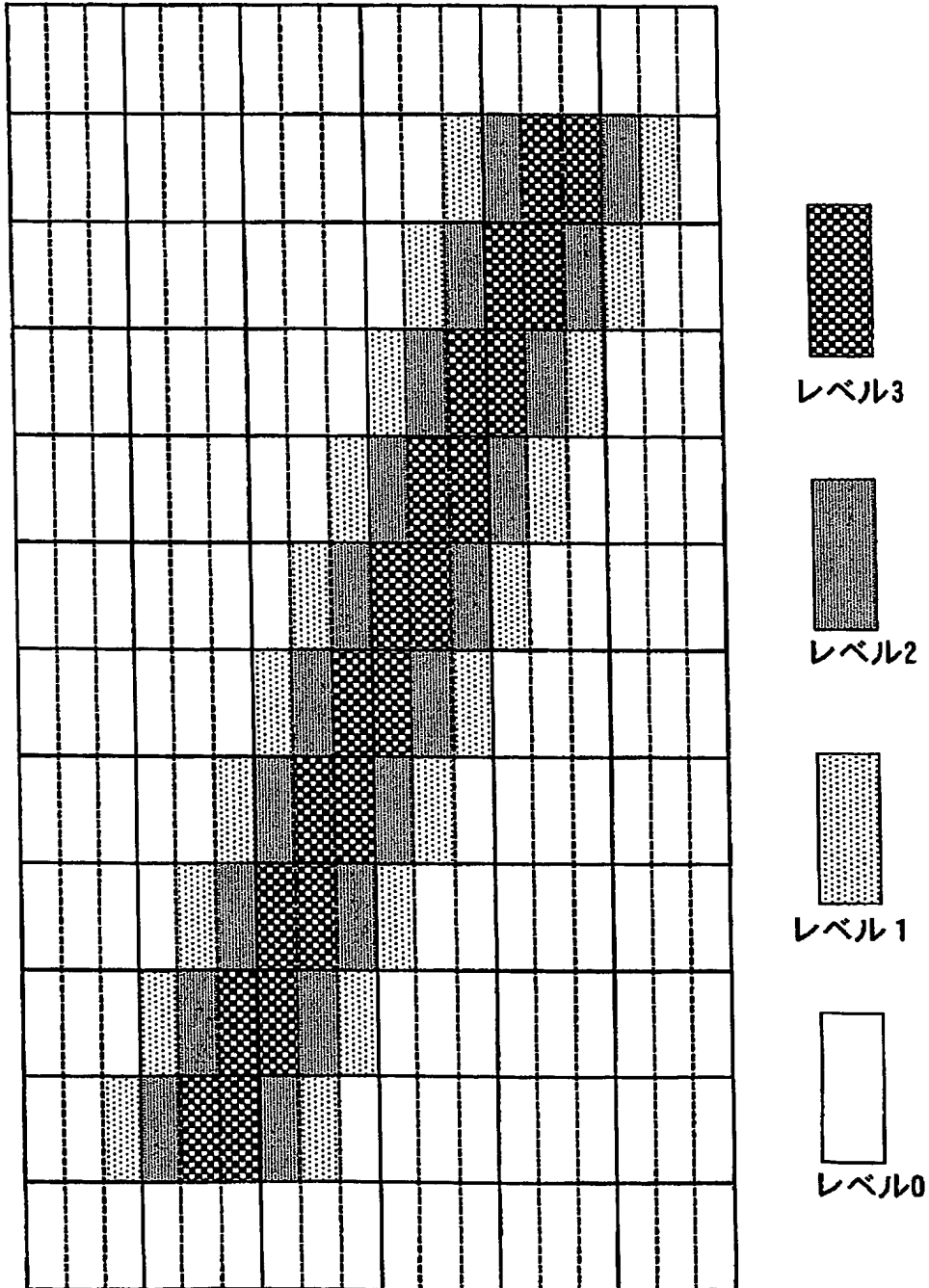
【図 14】



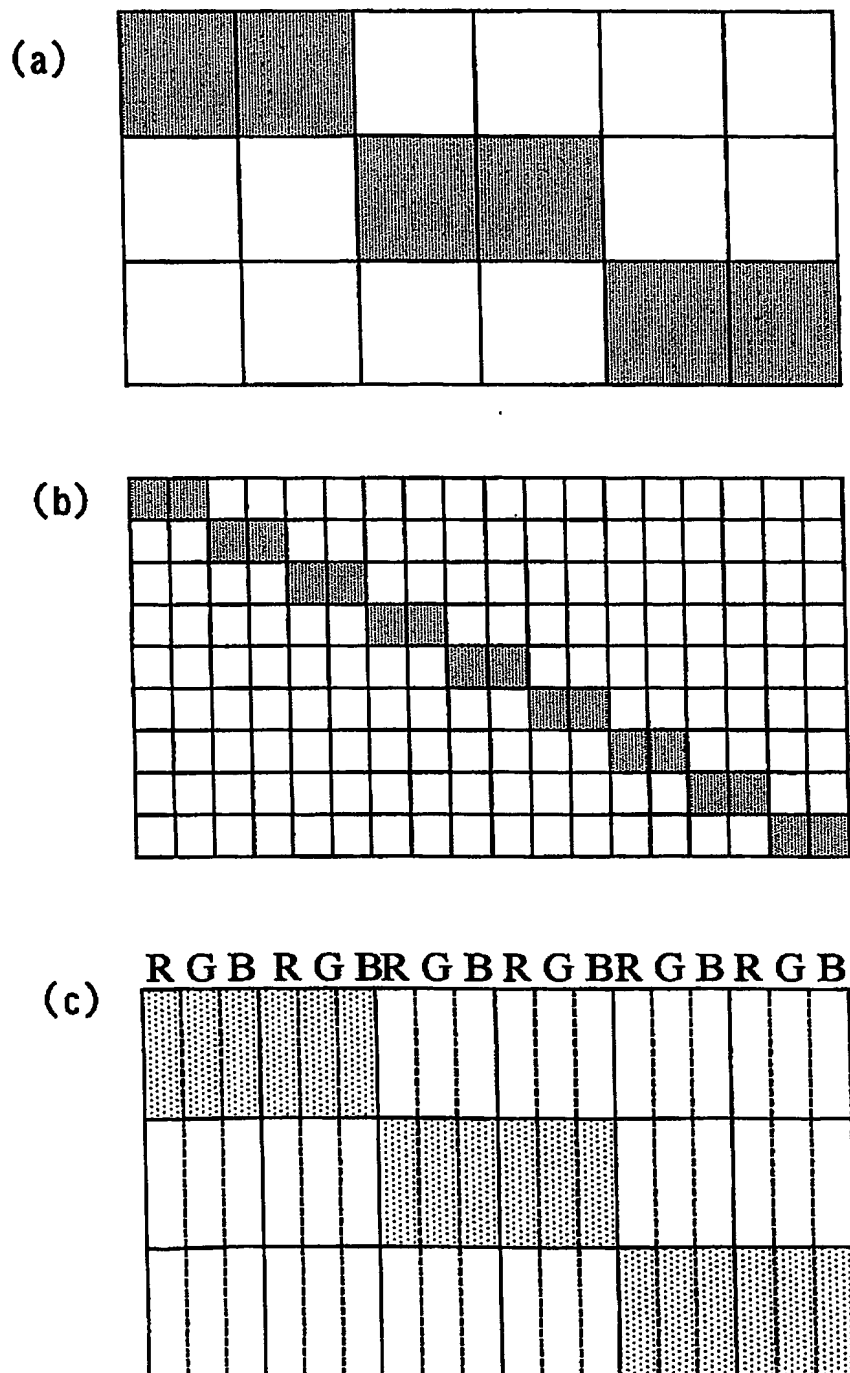
【図15】



【図 16】



【図 17】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 文字表示装置において、大容量の作業用メモリを用いることなく、サブピクセルの長手方向の解像度を擬似的に向上させると共に、自由に文字の線幅を変更することができるようにする。

【解決手段】 制御部 3 によって、サブピクセルの中心とストロークに含まれる少なくとも一つの点、およびストロークに設定された線幅の少なくとも一方に基づいて、そのサブピクセルに対応する色要素レベルを設定制御して、表示デバイス 2 の表示画面に文字を表示させる。

【選択図】 図 3

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-191436
受付番号	50301113163
書類名	特許願
担当官	北原 良子 2413
作成日	平成15年 7月11日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000005049
【住所又は居所】	大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号
【氏名又は名称】	シャープ株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100078282
【住所又は居所】	大阪府大阪府中央区城見1丁目2番27号 クリスタル タワー15階

【氏名又は名称】	山本 秀策
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100062409
【住所又は居所】	大阪府大阪府中央区城見1丁目2番27号 クリ スタルタワー15階 山本秀策特許事務所

【氏名又は名称】	安村 高明
----------	-------

【選任した代理人】

【識別番号】	100107489
【住所又は居所】	大阪府大阪府中央区城見一丁目2番27号 クリスタル タワー15階 山本秀策特許事務所

【氏名又は名称】	大塩 竹志
----------	-------

特願 2 0 0 3 - 1 9 1 4 3 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 0 4 9]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 9 日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号

氏 名

シャープ株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.